

機械導体又ハ器具トノ間並器具ト金屬機械トノ間ハ一米未滿タルコトヲ得ス
各据付場所ニ於テハ特ニ配電盤上ニ明瞭ナル配號ヲ付シ第二種導体及器具ヲ他ト區別標識セシムル
ヲ要ス

建築ノ關係上又ハ工業ヲ行フ結果鹽化沈澱物ヲ生スル爲若ハ温氣ノ爲土地及壁トカ著シク導性ヲ有
スル据付場所ニハ手ノ觸ルル範圍内ニ露出ノ儘ノ傳導物又ハ器具ヲ設置スヘカラス

第七條 發電所及變壓所ニハ電流不通ノ場合ニモ豫備燈光ノ設備ヲ要ス

第四節 電線ニ關スル設備

第八條 第二種ノ設備ニ屬スル露出電線ハ適當ナル間隔ヲ有スル絶緣盤ニ載セ人ノ觸レサル距離ニ極
管圓柱等ノ金屬性ノ物体ニ依リ離隔シテ設置スルヲ要ス

第一種ノ設備ニ屬スル露出電線ニシテ屋内ニ設置セラレ人ノ觸ルル距離ニ在ル所ノモノハ顯著ナル
標識ヲ附シテ注意セシムヘク且監守ヲ置キテ人ノ接近スルヲ防クヘシ

其ノ他電線ノ被覆ハ適當ニ絶緣スルコトヲ要ス
第一種ノ電流ノ通スル導体ニハ労働者ノ安全ヲ充分保護スルニ足ル用意ヲ爲スニ非サレハ加工ヲ爲
スヲ得ス

導体ノ異常ニ熱セラルルコトヲ防ク爲遮斷器、溶解セラルヘキ鉛或ハ之ト等シキ方法ニ依リ設備ヲ
爲スヘシ

第九條 圓柱、支材等建築用鐵材ニシテ電線ノ災害ニ依リ第二種ノ電壓ノ通スル危險アルモノハ適當
ニ土地ニ接續セシムルヲ要ス

第十條 第二種ノ電線ヲ修繕スルニハ其ノ加工部分ノ兩端ノ電流ヲ斷テタル後ニ非サレハ決シテ之ヲ
行フヲ得ス復舊後ハ主任ノ特別ナル命令アルニ非サレハ電流ヲ通スルヲ得ス主任ハ各職工長ヨリ仕
事ノ終了シタルコト及職工ノ豫定セル集合地點ニ集合シ居ル旨ノ通知ヲ受タルコトヲ要ス
仕事ノ繼續中ハ電線ノ切斷部ニ主任ノ命ニ依リ電流ヲ通スル迄之ヲ遮斷スル設備ヲナスヘシ
公共ノ安全ノ爲第二種電線ニ加工ヲ要スル場合ニハ主任ノ特別ナル命令ノ下ニ其ノ指示セル安全手
段ヲ盡シタル後ニ非サレハ之ヲ實施スルヲ得ス

第十一條 機械ノ取外シ其ノ他之ニ類似ノ労働ニシテ職工ノ直接又ハ間接ニ第二種ノ導体又ハ金屬性
物体ニ接觸スル場合ニハ確實ナル絶緣ノ設備ヲ爲シ職工ノ安全ヲ計リタル後ニ非サレハ之ヲ實施ス
ルヲ得ス

第十二條 電氣設備ヲ有スル營造物ニ於ケル事業用ノ電信、電話或ハ特別信號ノ電線ニシテ其ノ延長
ノ全部又ハ一部ヲ第二種ノ電線ト同一支柱ニ設置セラレタルモノニ付キテハ第八條(第一項及第六
項)、第十條、第十一條ヲ適用ス

前項ノ電話機電信機又ハ信號機ニハ其ノ使用者ト電線トヲ絶緣スル裝置ナキ場合ニハ使用者カ土地
ト全ク絶緣セラレタル後ニ非サレハ機械ヲ使用シ得サル設備ヲ施スヲ要ス

第五節 揭示、除外例、監督

第十三條 工業主、支配人又ハ管理人ハ第二種ノ設備ヲ爲シタル場屋内ノ見易キ場所ニ左ノ揭示ヲ爲
スヲ要ス

一、第二種ノ電壓ヲ受タル金屬又ハ導體ニ觸レ又ハ之等ノモノニ加工スル場合ニハ護手袋ヲ着用

シ又ハ絶縁セル柄ヲ付シタル機具ヲ使用スルトキト雖モ危険ナルヲ以テ絶對ニ禁止スヘキ旨ノ服務規則

二、本命令ノ拔萃及感電被害者ニ施スヘキ手當ニ關シ省令ヲ以テ定メタル文言ト同趣旨ナル訓示尙第二種ノ設備ヲ爲セル各室内ニハ電氣災害ニ備フル爲絶縁セル柄ヲ付シタル小鉤數個及脚ノ尖端ニ硝子又ハ陶器ヲ付シタル漆塗リノ絶縁臺一個ヲ準備スヘシ

第十四條 電氣機具(機械、機具、電線)ノ製造修繕ヲ爲ス工場ニ於テ機具ヲ試驗スル爲第二種ノ電壓ヲ使用スル場合ニハ該試驗ニ關シ工場主ノ特ニ選任セル熟練職工ノミ危険ナル機具ヲ取扱ヒ一般ノ安全ノ確保セラルルトキニ限リ本命令ヲ適用セス

工業主ハ前項ノ試驗ニ付キ特別規則ヲ定メ之ヲ職工ニ知ラシムヘシ

第十五條 勞働大臣ハ勞働監督官ノ報告ニ基キ技術及工業諮問委員會ノ意見ヲ聞キ左記ノ場合ニハ第五條(第三項及第四項)第六條(第一項)ノ例外ヲ命令ヲ以テ定ムルコトヲ得

- 一、本命令公布以前ニ設置セラレタル設備ニ關スルトキ
- 二、本命令ノ規定ヲ適用スルコト事實上不可能ナルトキ

此場合ニハ第五條及第六條ニ規定スルト同等ナル程度ニ被備者ノ安全ヲ確保スルヲ要ス

第十六條 工業主支配人又ハ管理人ハ第二種電氣設備ノ圖面ト同時ニ工場變壓所ノ敷地及電線ノ布設場所ヲ勞働監督官ニ報告スヘシ

此報告書ニハ左記事項ヲ記載セル書類ヲ添付スヘシ

イ、第二種ノ電氣機械又ハ變壓器ニ關スル本命令第二條(第二項)ノ規定ニ從ヒ電流ヲ通セサル金

屬性ノ物体ヲ電氣ニ依リ土地ト絶縁セルカ又ハ土地ト接觸セシメタルコト

ロ、本命令實施ニ關スル検査ヲ確實ナラシムル爲必要ナル學術上ノ報告(電流ノ性質設備ノ各部分ニ於ケル電壓、第九條ニ規定スル金屬性物体)

毎年度開始後十五日以内ニ工業主、支配人又ハ管理人ハ圖面及其ノ添付書類ニ付キ追完スル必要アルトキハ之ヲ追完シ變更アリタル時ハ之ヲ勞働監督官ニ報告スヘシ

重大ナル變更ヲナシタル時又ハ設備ヲ新設シタル場合ニハ之ヲ使用スル以前ニ其ノ圖面及添付書類ヲ監督官ニ提出スヘシ

第六節 附 則

第十七條 本命令ハ一九〇六年六月十五日法律ニ依リ規定セラレタル送電ニ關シテハ之ヲ適用セス但シ發電所内ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 勞働法第二編第六十九條ニ規定スル最短猶豫期間ヲ定ムルコト左ノ如シ

第二條(第二項及第四項)第五條(第一項及第二項)第六條(第一項及第三項)及第八條(第一項第三項及第六項)ニ付キテハ十五日

其ノ他ノ條項ニ關シテハ四日但シ此最短猶豫期間ハ既存ノ設備ヲ利用スルニ止ラス新ニ設備ヲナスコトヲ要スル場合ニハ一月迄延期スルコトヲ得

本命令公布前ニ工業主ニ指定サレタル履行期間ハ本命令以前ニ決定セラレタルモノト見做ス

第十九條 一九一二年十一月二十六日法律第三條及第四條施行ノ結果トシテ本命令公布ノ日ヨリ一九

〇七年七月十一日命令及該命令ヲ改正シタル一九一二年八月十三日命令ハ之ヲ廢止ス

(十六)一九一三年十月九日省令

電流災害者ノ手當ニ關スル注意告示

第二種ノ電氣機械ヲ据付ケル室内ノ見易キ場所ニ掲ホスヘキ感電被害者ニ加フル手當ニ關スル注意告示左ノ如ク定ム

感電被害者ニ加フル手當ニ關スル注意

感電シタル者アルトキハ自己ノ危険ヲ防ク爲左ノ事項ヲ嚴重ニ守リタル上速ニ之ヲ電流ヨリ引離スヘシ

注意一濕氣ハ救護ニ際シ特ニ危険ナリ

第一種ノ電壓 (註一)第一種ノ電壓トハ百五十「ボルト」以下ノ交流六百「ボルト」以下ノ直流ヲ謂フ

導体ニ直接ニ觸レ又ハ之ニ金屬類ヲ以テ間接ニ觸ルルコトナキ様注意シ導体ヲ被害者ヨリ遠サクヘシ

六千「ボルト」以下ナル第二種ノ電壓

電流ヲ閉止センコトヲ試ミ危険ニ接觸セシメタル様努力スヘシ

イ、電線カ地下ニ落テ被害者ニ觸レタル場合

電線ヲ離スコト一被害者ニ觸レスニ一九一三年十月一日命令第十三條最後ノ項ニ規定セラレタル不導

体ノ柄ヲ付シタル鈎ヲ以テ電線ヲ遠サクヘシ (註二)此等ノ鈎ナキ時ハ絶縁セル柄ノ付シタル柄、杖其ノ他ノ

一九一三年十月一日命令第十三條最後ノ項ニ規定スル絶縁盤即漆ヲ塗リタル木盤ニシテ陶器或ハ硝

子ヲ付シタル脚ヲ有スルモノニ身ヲ置クヘシ (註三)絶縁盤ナキトキハ地上ニ板ヲ敷キ不導体(空瓶陶器等)

被害者ヲ移轉スルコト及救ヒ出スコト、若シ電線ヲ移スヨリ被害者ヲ移スコト容易ナル場合ニハ前

記ト同一ノ注意ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

此等ノ處置ヲ爲スニ際シ電線ヲ顔面部其ノ他露出セル身体ノ部分ニ觸レシムルコトヲ避クヘシ

ロ、被害者カ懸垂シタルトキ

被害者ノ墜落ニ對スル用意ヲナシ地上ニ布團枕ヲ用意シテ電流ヲ廢除スヘシ

六千「ボルト」以上電壓(導体間)

電流ノ廢除、電流ヲ廢除シ得サルトキハ救助ハ常ニ頗ル危険ナリ

救助者ヲ電流ヨリモ亦土地ヨリモ絶縁セシメ一九一三年十月一日命令第十三條末項ニ規定スル絶縁

セル柄ヲ付シタル鈎ヲ使用スヘシ (註四)此種ノ鈎ナキ場合ニハ不導体ノ柄ヲ付シタル又ハ

一九一三年十月一日命令第十三條末項ニ規定スル絶縁盤即陶器又ハ硝子ヲ先端ニ付シタル脚ヲ有ス

ル漆塗リノ木盤ノ上ニ身ヲ置クヘシ (註五)絶縁盤ナキトキハ地上ニ板ヲ敷キ不導体(空瓶陶器

總テノ場合ニ醫師ニ報知スヘシ

醫師ノ到着前ニ施スヘキ手當

電流ヨリ隔離シタル時ハ被害者ノ死亡セル如キ外觀ヲ呈スルトキト雖モ直ニ左ノ處置ヲ施スヘシ

先ツ被害者ヲ空氣ノ流通良キ場所ニ搬ヒ少數ノ補助者以外ハ皆遠サクヘシ

着衣ヲ解キ速ニ呼吸ト血行トヲ恢復セシムルコトヲ努ムヘシ、呼吸ヲ恢復セシムルニハ大凡二種ノ

方法アリ、舌ヲ引クコトト人工呼吸法ナリ、常ニ先ツ舌ヲ引クコトヨリ始メ同時ニ人工呼吸法ヲ施

シ且手又ハ濕レタル布ヲ以テ身体ヲ摩擦シ刺撃シ時々顔面ニ冷水ヲ灑ギ「アンモニア」又ハ酢ヲ吸入

セシム

一、舌ヲ引ク方法

先ツ被害者ノ口ヲ開カシム、齒ヲ喰ヒ締メ居タルトキハ指其ノ他木片庖丁ノ柄、匙、杖ノ先キ等ニテ之ヲ開クヘシ。

舌ノ尖端ヲ右手ノ親指ト食指ヲ以テ攪ミ(滑ルノヲ防クタメニハ指ニハンケチ等ノ布ヲ巻ク)繰返シ續ケテ一定ノ調子ヲ以テ舌ヲ強ク引キ又之ヲ離スヘシ調子ハ呼吸ト合ス様ニナスヘク大凡一分ニ二十以上トス

舌ヲ引クコトハ遲滞ナク行フヘク失望セスニ三十分一時間必要アラハ夫レ以上ニモ忍耐ヲ以テ行フヘシ

二、人工呼吸法

被害者ヲ仰臥セシメ肩ヲ少シ揚ケ口ヲ開キ舌ヲ出サシム

腕ヲ臂ノ高サニ握リ其ヲ強ク胸壁ニ押シ付ケタル後之ヲ離シテ圓ノ弧ヲ画キナカラ頭ノ上ニ擧クヘシ而シテ後又舊位置ニ胸壁ニ押シ付ケタル後復サシム

此運動ヲ自然ニ呼吸ヲ恢復スル迄一分ニ約二十回ツツ繰返スヘシ呼吸ヲ恢復スルニ時トシテハ數時間ヲ要スルコトアルヘシ

(十七一九一三年十月一日命令)

壓搾空氣内ノ労働ニ適用サルヘキ保護及衛生ニ關スル特別設備ノ件

第一條 壓搾空氣内ニ於テ労働スル工場ニ於テハ工業主、支配人又ハ管理人ハ一九一三年七月十日命令ニ規定スル一般的設備ノ外向以下各條ニ規定スル保護及衛生ニ關スル特別設備ヲ爲スヲ要ス

第二條 工業主ハ醫師一名ヲ選任シ以下ニ規定スル診断及検査ヲ行ハシムヘシ醫師ノ報酬ハ事業主ノ負擔トス

職工ハ壓搾空氣内ノ労働ニ不適當ニ非サル旨ノ醫師ノ診断書ヲ有スルニ非サレハ此種ノ労働ニ従事スルヲ得ス

職工ハ雇入後十五日及其ノ後ハ各一月毎ニ一回宛診断書ヲ更新セララルルニ非サレハ壓搾空氣内ノ労働ヲ繼續スルヲ得ス

定期ノ診察以外ニ工業主ハ醫師ヲシテ耳鼻咽喉ノ故障ヲ申立テ又ハ診察ヲ希望スル旨申出テタル職工ヲ診察セシムヘシ

第三條 衛生的飲料ニアラサルモノハ工場内ニ搬入セララルコトヲ妨止スル手段ヲ採ルヲ要ス

第四條 氣壓ノ増減ハ職務規則ニ依リ特ニ選任シタル職工ヲシテ監督セシムヘシ

氣壓増加ノ場合ニハ一平方「センチ米」ニ一「キロ瓦」ノ壓力ヲ二「キロ瓦」ニ増加セシムルニハ少クトモ四分間、二「キロ瓦」以上ハ一「キロ瓦」宛増加スル毎ニ五分間ヲ用ユルヲ要ス

氣壓減少ニ要スヘキ時間ハ左配規定ヨリ下ルコトヲ得ス

一平方「センチ米」ニ三「キロ瓦」以上ノ壓力ノ場合ニハ二十分
立方「センチ米」ニ二「キロ瓦」ヨリ三「キロ瓦」ノ間ノ壓力ノ場合ニハ十五分
立方「センチ米」ニ一「キロ瓦」ヲ超エサル壓力ヲ壓力零トナスニハ五分マテ短縮スルヲ得。

職工ヲ退場セシメタル後ニ非サレハ氣壓ヲ減少シテ氣壓瓣ヲ落下セシムルヲ得ス

一「センチ米突」ニ對シ「キロ瓦」以上ノ氣壓ノ場合ニハ絶エス作用スル自動計壓器ヲ裝置スヘシ

第五條 就業室ハ職工ノ起立シ得ル高ヲ有スヘク如何ナル場合ト雖モ一米突八十未滿ナルヲ得ス

就業室内ニハ空氣中ニ於ケル炭酸ノ比例カ千分ノ一ヲ越エサラシメン爲一人ニ付一時間ニ四十米突立方ノ空氣ヲ送ルヘシ

空氣ノ送入口中絶シタル場合ニハ就業室ニ於ケル指揮者ハ總テノ職工ニ對シ長クモ十分ヲ待チタル後退出スヘキヲ命スヘシ

就業室ニ於テハ職工ヲ全部退場セシメタル後ニ非サレハ爆發ヲ爲スヘカラス且ツ空氣ノ常態ニ復舊シタル後ニ非サレハ職工ヲ立入ラシムルコトヲ得ス

第六條 密閉室内ニ於ケル空氣ノ容積ハ一人ニ付少クトモ「六百デシ」米突立方ナルヲ要ス

密閉室内ニ於テ十分間以上氣壓減少ノ間換氣ヲ行フ場合ニハ壓搾空氣ノ出入ノ栓ヲ加減爲シツツ之ヲ行フヲ要ス

夏季ニ於テ日光ノ直射スル開門ハ天幕又ハ濕リタル菰ヲ以テ覆フヘシ

第七條 眩惑ヲ感シタル時職工ノ開門ヨリ外界ニ出スル時ニ墜落ノ危險ヲ避クル爲テ注意スルヲ要ス

第八條 通路ノ扉及開門ノ閉鎖器ハ壓力ノ強キ方向ニ開カシムヘシ

材料搬入及滓屑搬出ノ戸ハ壓力ノ弱キ方向ニ開クヘシ但シ不時ニ開カサシムル爲安全通動機ヲ備フヘシ

第九條 烟突ハ容易ニ接近シ得ヘク梯子ハ常ニ清潔ニ維持セラルルヲ要ス

梯子ヲ攀シ得サル職工ヲ昇ラシムル爲救助施設ヲ用意スヘシ

烟突及就業場ハ電氣燈ヲ以テ照スヘシ

就業場内ニハ烟突ノ下ヲ職工ノ通行スルヲ避クル爲特ニ注意スヘシ

第十條 空氣ヲ注入スル各管ニハ其ノ口ニ送入スル空氣ノ壓力カ就業場内ノ空氣ノ壓力ヨリ以下ニ下ルトキハ自動的ニ閉ツル瓣ヲ裝置スヘシ

通風機械(ポンプ管タンク)ニハ其ノ内ニ送リタル空氣ノ壓力ヲ自動的ニ測定スル設備ヲ爲スヘシ

第十一條 工場内ニハ壓搾セル酸素管又ハ其ノ他迅速且容易ニ充分ナル酸素ヲ發散セシムル原料ヲ容レタル救助函ヲ設備スヘシ

一「センチ」米突平方ニツキ「キロ」瓦二百以上ノ壓力ノ下ニテ勞動スル場合ニハ勞動室ヲ出テタル勞動者ヲ收容スル爲工場ノ附近ニ休憩所ヲ設置スヘシ、休憩所ノ面積ハ一人ニ付六米突立方ノ割合ニテ壓搾空氣内ニテ交互ニ勞動スル勞動者ノ數ニ應シテ定ムヘシ、休憩所ハ適當ニ空氣ノ流通ヲ良クシ洗面器石鹼各個人用ノ手拭衣類置場及寢臺ヲ備フヘシ

就業室内ノ氣壓カ「センチ」米突平方ニツキ「キロ」瓦ヲ超エル時ハ寢臺ト助手二名ヲ容ルルニ適當ナル面積アル中間氣壓ノ室ヲ設クヘシ

第十二條 總テ機具就中發動機、タンク、管、瓣、梯子、鎖等ハ每週検査スヘシ

煙筒ヲ接キ合セタル螺旋釘ハ之ヲ動カセル毎ニ特別ノ検査ヲ爲スヲ要ス

第十三條 府縣知事ハ監督技師又ハ勞動監督官ノ通告ニ基キ命令ヲ以テ左記事項ニ關スル命令ノ一部

又ハ全部ヲ永久的ニ又ハ一時的ニ免除スルコトヲ得

- 一、自動的壓力計(第四條末項)
- 二、空氣中ニ包含スル炭酸瓦斯ノ最大限(第五條第二項)
- 三、電話機ノ設置(第六條末項)
- 四、自動的設備ニ依ル壓力ノ調整(第十條末項)
- 五、中間氣壓室(第十一條末項)

第五號ニ關シテハ第二條ニ規定スル囑托醫ノ意見ヲ徵スルヲ要ス

第十四條 勞働者ノ雇入及賃金ノ支拂ヲナス場所ニハ工場主支配人又ハ管理人ハ左ノ揭示ヲ爲スヘシ
一、本規則ノ條文

二、壓搾空氣内ノ勞働時間及特別ナル場合ニ施スヘキ手當ノ方法ニ關シ勞働大臣カ技術及工業諮問委員會ニ諮問シテ定メタル告示

第十五條 勞働法第二編第六十九條ニ規定スル猶豫最短期間ハ本命令ノ規定ニ關シテハ四日トス

本省令公布前ニ工場主ニ指定サレタル猶豫期間ハ本省令以前ニ定メラレタルモノト見做ス

第十六條 一九一二年十月二十六日法律第三條第四條ノ執行ノ結果トシテ一九〇八年十二月十五日命令及該命令ヲ改正シタル一九一〇年四月二十一日命令ハ本命令公布ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

(十八) 一九一三年十月九日省令

壓搾空氣内ノ勞働時間及現場合注意ヲ要スル事項ニ關スル告示制定ノ件

造船所ニ於ケル壓搾空氣勞働ニ適用スヘキ特別保護衛生規定ニ關スル一九一三年十月一日統令第十

四條第二ノ規定ニ依リ左ノ告示ヲ造船所壓搾空氣勞働者ノ雇入事務所ニ揭示スルヲ要ス
告 示

壓搾空氣内ニハ二十四時間ニツキ左ノ時間以上滞在セシメサルモノトス

- 一、種平方ニ對スル實際壓力、二、二疋以下ノトキ 八時間
- 全上 壓力二疋以上二疋五〇〇ノトキ 七時間
- 全上 二疋五〇〇以上三疋ノトキ 六時間
- 全上 三疋以上三疋五〇〇ノトキ 五時間
- 全上 三疋五〇〇以上四疋ノトキ 四時間

(十九) 一九一三年九月二十二日統令

商店及店舗前ノ商品陳列ニ關スル特別規定

第一條 商店及店舗前ニ商品ヲ陳列スル場合ニハ茲ニ執務スル店員ノ保健上庇又ハ之ニ類スルモノノ設備ヲ爲ササル限リ之ヲ許可セス

冷氣ヲ費ユル場合ニハ店内ニ於テ充分ナル保温手段ヲ行フモノトス

第二條 前條ノ規定ニ從ヒ施設ニ要スル勞働法第二編第六十九條ノ最短猶豫期限ヲ四日ト定ム但シ右施設ニ着手スル爲現在ノ建物ヲ利用スルコトナク特ニ建物ヲ新設スル場合ニハ此期限ヲ一箇月ニ延長スルコトヲ得

(二) 爆發性粉末ヲ散放スル工場ノ特別安全設備參考

(イ) 石松、麥粉、澱粉、糊精、砂糖、菓子、油煙、硫黃、「アルミニウム」「マグネシウム」等ノ生産物ヨリ可燃

性粉末ヲ放散スルカ又ハ粉末ノ混入セル空氣一立方米突ニ於テ空中燃焼ニ依リ少クモ六百「カ
ロリー」ノ熱量ヲ放出シ易キ可燃性粉末ヲ放散スル工場又ハ工場ノ一部ニ於テハ一九〇四年十一
月二十九日命令ニ定ムル一般規定ニ關係ナク事業主自ラ左記諸項ノ特別安全施設ヲ爲サムコトヲ
勸ム

- (ロ) 右粉末ヲ放散スル工場ノ壁、天井等ハ絶エス之ヲ平滑ニシ且ツ目蓋ヲ行ヒ工場ノ内部ハ總テ急角
度ヲ避ケ丸味ヲ持タセタル壁ニ天井ヲ載セ地上ニ設置スル機械臺ニモ丸味ヲ持タスヘシ
- (ハ) 壁、木材、天井及諸材料ハ少クトモ一週一回粉末掃除ヲ行ヒ休業ノ際ハ勞働終了後一九〇四年十一
月廿九日付命令第一條ノ地上掃除ヲ行フコトヲ勸ム
- (ニ) 特殊ノ事情ニ依リ粉末掃除ヲ行ヒ得ザル場所ニハ灌水ヲ施シ又ハ發散性ヲ有セサルモノヲ散布ス
ルコトヲ勸ム
- (ホ) 一九〇四年十一月廿九日付命令第六條ノ規定ニ依リ粉末ヲ掃除セル倉庫ト工場トハ完全ニ粉末ノ
散入ヲ防キ得ル壁ヲ以テ分離シ且災害突發ノ際右倉庫ニ放水シ得ル様適當ノ裝置ヲ爲スヘシ
- (ヘ) 粉末ノ通過スル機械ノ内面及倉庫換氣筒ノ内面ハ粉末ノ散逸ヲ防止センコトヲ勸ム
- (ト) 倉庫及竈又ハ瓦斯管ノ間ニハ流通セシメ又太陽ノ光線或ハ室ヲ分離セル明窓ノ光線ヲ利用スルニ
非セレハ室内ヲ掃除セシメサルコトヲ勸ム
- (チ) 太陽ノ光線ヲ直射シ易キ硝子ハ夏期中白又ハ碧色ヲ以テ彩色スルコトヲ勸ム
- (リ) 粉末ノ放散スル工場ヲ乾燥スルニ露出セル儘ノ火器又ハ直接火ヲ以テ熱シタル空氣或ハ裸燈火器
ヲ用ヒサルコトヲ勸ム

- (ヌ) 粉末ノ放散スル場所ヨリ完全ニ離隔シタル場所ニ蒸氣罐瓦斯罐爆發發動機ヲ設置シ電氣ヲ使用ス
ル場合ニハ一九〇七年七月十一日命令第四條ノ規定ヲ参照センコトヲ勸ム
- (ル) 粉末ヲ放散スル場所ニ設置シタル發動機ニハ注油臺ヲ設ケンコトヲ勸ム
- (ヲ) 粉末ヲ放散スル場所ニ就業中些少ノ壓力ヲ以テシテモ開扉シ得ル門窓ヲ取付ケンコトヲ勸ム
- (ワ) 事業主ハ見易キ場所ニ場内禁煙點火燐寸火又ハ事業主ガ交付セル以外ノ燈火携帯禁止ニ關スル工
場規則ヲ揭示センコトヲ勸ム

(二十一) 一九一五年十二月四日統令

勞働法第二編第六十五條ニ指定セル工場内ノ鐵道ニ關シ勞働者ノ安全ヲ確保スヘキ設備施行細則

第一條 加工スヘキ諸材料及ハ商品輸送ノ目的ヲ以テ鐵道ヲ使用スル事業主支配人又ハ管理人ハ一九
一三年七月十日付命令ヲ以テ規定セル一般設備ノ外左ノ特別安全施設ヲ爲スヘシ

第一章 蒸汽機關又ハ他ノ自動牽引機ヲ使用スル鐵道

- 第二條 二線隣接スル場合兩複線間ノ距離ハ之ヲ通過スル兩車輛ノ外側面ニ於テ少クモ七十五糎ノ間
隔ヲ設クヘシ但シ隣接線ヲ車輛ノ出入庫ニ専用スルトキハ五十糎ニ低減スルコトヲ得
- 第三條 普通運轉ニ使用スル線路ニ添ヒ壁又ハ連續セル障害物アルトキハ車輛外側面及右障害物ノ間
隔ヲ最短七十糎ト爲スヘシ但シ柱、門、路標ノ如ク障害物カ孤立セルトキハ五十糎ニ低減スルコトヲ得
前項ノ規定ハ之ヲ荷揚荷積場ハ勿論永久ノ方法ニ依リテ建設シ一定ノ圍壁ノ設アル燃料倉庫又ハ他
ノ倉庫ニ適用セス

第四條 諸材料商品ヲ一時線路ノ附近ニ放置スル場合ニハ之ト車輛ノ外側面トノ間隔ヲ最短七十糎ト

- 第五條 交又點又ハ接續點ノ附近ニ停車スル一切ノ車輛ハ此車輛ノ外側面及他ノ線路ヲ通過スル車輛ノ外側面トノ間隔カ七十糎未満ナルトキ信號ヲ以テ保護スヘシ
- 第六條 轉軌機挺ハ轉軌機操縦者及車輛外側面トノ最短間隔ヲ七十糎ニ設置スヘシ
- 第七條 本令第二條第三條第四條第五條第六條ニ規定セル一定ノ間隔ハ車輛上ノ荷物ヲ考量シ且ツ横ニ距離ヲ計リテ之ヲ決定スルモノトス
- 第八條 轉軌機柄信號線及地上ニ露出スル他ノ一切ノ機械ハ堅牢ナル外被ヲ以テ保護スルカ又ハ容易ニ認識シ得ル様鮮明ニ彩色スヘシ
- 第九條 夜中運轉スル機械又ハ列車ハ前面ニ信號燈ヲ點スヘシ
- 第十條 停車信號徐行信號ハ停車又ハ徐行ヲ要スル各線路ノ前面ニ設置スヘシ
- 第十一條 線路又ハ其ノ附近ノ改修工事ニ着手スルトキハ工夫ノ安全ヲ保證スルニ足ル措置ヲ講シ兩者孰レノ場合ニ於テモ列車ノ進行ヲ豫報シ又機關士ノ信號ニ注意スヘキ擔當者ヲ設クル外工事ノ必要ニ應シテ安全信號ヲ設置スヘシ
- 第十二條 機關車ヲ後端ニ連結セル列車又ハ列車ノ一部ニハ機關士及線路内ノ者ニ信號ヲ與フヘキ案内者ヲ乗組マシムヘシ
- 第十三條 勞働組織上一團ヲ爲シテ通行スル雇員勞働者等カ特ニ工場倉庫ヘノ出入ニ一定時間一定地點ニ於テ慣習的ニ線路ヲ横斷スルモノナルトキハ右地点ニ於テ隨時列車ノ進行ヲ停止スヘキ必要手段ヲ講スヘシ

第十四條 車輛又ハ一連ノ車輛ヲ線路上ニテ停車セシメタルトキハ不意ニ發車セサル様必要ナル一切ノ手段ヲ施シ制動機アルモノハ之ヲ以テ齒留スヘシ

第十五條 第四條第十條第十一條ノ規定ハ工場倉庫又ハ或種ノ建物内ノ鐵道ニ適用セス右鐵道ニ適用スヘキ特別安全規定ハ本令第二十條ヲ以テ之ヲ定ム

第二章 腕力、動物ノ牽引力絞車又ハ自動昇登機ヲ以テ運轉スル鐵道

第十六條 本章ノ目的トスル建物及鐵道使用者ニハ第六條第十四條ノ規定ヲ適用ス

第十七條 事業主支配人又ハ其ノ代理人ハ絞車運轉上左記諸項ニ注意スヘシ

- (イ) 絞車ト運轉車輛ノ間ニハ何人モ立入ラシメサルコト
- (ロ) 牽引鎖又ハ牽引綱ノ進路ニ障害物ヲ放置セサルコト
- (ハ) 鎖又ハ綱ノ結解ヲ停車中ニ於テノミ行ハシムルコト
- (ニ) 絞車ハ其ノ運轉者カ鎖綱取扱者ト呼吸ヲ合セタル後ニ非サレハ運轉セシメサルコト

第十八條 事業主支配人又ハ其ノ代理人ハ火急ノ場合迅速ニ停車セシムルコトヲ得ヘキ一定數ノ勞働者又ハ雇員カ運轉車輛ニ乗車シ居ルヤ否ヤヲ監視スヘシ

第十九條 車輛又ハ載貨ノ容積ノ關係上運轉士カ前面ノ軌道ヲ鳥瞰シ能ハサルトキハ特ニ勞働者又ハ雇員ヲ車輛ノ前方ニ配置シテ運轉士ニ操車上ノ注意ヲ與ヘ又軌道内軌道附近ノ者ニ警告ヲ發セシムヘシ

第三章 總 則

第二十條 事業主支配人又ハ管理人ハ就業地ノ見易キ場所ニ左ノ法規ヲ公示スヘシ

- (イ) 本令ノ條文

- 第十五條第二項ノ安全裝置規定及工場員ノ遵守スヘキ左記諸規定
- (一) 進行中ノ列車或ハ連結車ノ間ヲ通過シ又車輛ヲ引離ス爲其ノ停車前ニ車輛間ニ立入ルコトヲ禁ス
 - (二) 連結スヘキ車輛ノ内其ノ一方カ完全ニ停車セサル裡ハ斷シテ連結ス可ラス
 - (三) 連結者ハ兩車ノ距離三米以上ヲ存スルニ非サレハ其ノ間ニ立入ル可ラス
 - (四) 車輛ノ連結ヲ確保スル爲逆行ヲ試ミ又連結後直チニ逆行ヲ留メ連結者ヲシテ脱出セシムヘシ
 - (五) 特定器以外ノ機械ヲ以テ車輛ヲ連結スルコトヲ禁止ス
 - (六) 進行中ノ車輛又ハ機關車ノ前方ヲ横斷スルコトヲ禁ス
 - (七) 進行中ナル車輛又ハ機關車ノ緩衝機連結機ニ搭乘スルコトヲ禁ス
 - (八) 機關主任ノ信號前機關車ヲ發セシム可ラス
 - (九) 軌道内又ハ其ノ附近ニテ工事ニ從事セル労働者ハ運轉士ノ信號又ハ第十一條ニ指定セル特定人ノ警報ニ注意シ且ツ之ニ從フ可シ
 - (十) 蒸汽機關又ハ他ノ自動運轉機ヲ以テ曳引スル列車ノ速力ハ試運轉ノ場合ヲ除キ一時間十料ヲ超ユルコトヲ得ス此速力ハ常ニ運轉士ノ明瞭ナル眼界内ニテ停車シ得ルヲ要ス
 - (十一) 腕力動物牽引力又ハ絞車自動昇登機ヲ以テスル車輛ノ速力ハ一時間六料ヲ超ユルコトヲ得ス
 - (十二) 勞働法第二編第六十九條ニ規定セル猶豫ノ最短期限ハ之ヲ四日間ト定ム但シ現在ノ設備ヲ利用スルコトナク新ニ設備ヲ施スモノナルトキハ之ヲ一箇月ニ延長ス
 - (十三) 第廿二條 本令ニ定ムル改造實行期間ハ勞働省令ヲ以テ規定スル日ヨリ起算シテ六箇月トス但シ勞働大臣ハ既存ノ建設物カ良好状態ノ下ニ被備者ノ安全ヲ保證シ居ル外即時本令ヲ適用スル爲右建設物

カ特種ノ困難ニ陥ルヘシト認メタルトキハ勞働監督官ノ報告及工藝評議委員會ノ意見ニ基キ公布スヘキ省令ヲ以テ右建設物ニ對シ五箇年間全部又ハ一部本命令ノ實施ヲ免除スルコトヲ得

右免除期間ハ同一條件ヲ具備スル際延長スルコトヲ得

如何ナル場合ト雖本命令實施上既存ノ建物ノ破壊ヲ命スルコトヲ得ス

第五 勞働監督官ノ組織

(一) 一九一三年九月二十二日命令

法律第三條及第四條並第百一條ニ依ル勞働監督官ノ組織ニ關スル件

第一條 (改正一九一四年一月十三日命令) 勞働監督官ノ員數ヲ定ムルコト左ノ如シ

管區監督官 十一名

府縣監督官 百十四名

府縣監督官 (女子)十九名

第二條 (追加一九一六年一月一日命令) 前條ノ人員中ニハ一八五三年十一月九日命令第十六條ニ規定スル暇中ノ監督官ヲ包含ス

休職ノ勞働監督官ハ前條ノ人員中ニ之ヲ包含セス

第三條 (改正一九一四年一月十三日命令) 各管區監督官ノ管轄區域及其ノ駐在地府縣監督官ノ管轄區域及其ノ駐在地ハ

左表ノ如ク定ム

管區	府	縣	府縣監督官ノ員數	府縣監督官ノ駐在地	管區監督官ノ駐在地
第一	Seine, Seine et Oise 及 Seine et Marne.		二十二名 (女子)十二名	巴里(廿一名(女子)十二名) Versailles (一名)	巴里
第二	Haute-Vienne, Loiret, Loiret-Cher, Indre et Loire, Vienne, Indre, Creuse, Allier 及 Cher,		七名	Limoges, Orleans, Tours, Poitiers, Montlucon, Bourges, Vierzon.	Limoges.
第三	Yonne, Nièvre, Aube, Haute-Marne, Côte d'Or, Haute-Saône, Territoire de Belfort, Boulsjura 及 Saône et Loire.		八名	Nevers, Troyes, Dijon, Chalon-sur-Saône.	Dijon.
第四	Meurthe-et-Moselle, Aisne, Ardennes, Marne, Meuse, 及 Vosges.		十名	St. Quentin, Soissons, Reims, (二名) Charle-ville, Bar-le-Duc, Nancy (三名) Epinal.	Nancy.
第五	Nord, Pas-de-Calais.		十三名 (女子)一名	Lille, (三名(女子)一名) Roubaix, Tourcoing. Douai, Valenciennes, Maubenge, Combrai, Armentiers, Dunkerque, Calais, Arras.	Lille.

第六	Somme, Oise, Seine-Inférieure, Eure, et-Loir, Orne, Calvados 及 Manche.		十一名 (女子)一名	Amiens(二名) Creil, Rouen, (二名) La Havre, Elbeuf, Chartres, Caen. Cherbourg, Flers.	Rouen.
第七	Sarthe, Mayenne, Ille-et-Vilaine, Côtes du Nord, Finistère, Morbihan, Loire-Inférieure, Vendée, Deux-Sèvres 及 Maine-et-Loire.		八名 (女子)一名	La Mans, Nantes, (一名(女子)一名) Rennes, Hngers, Brest, Lorient, Niord, Laval.	Nantes.
第八	Charente-Inférieure, Gironde, Lot-et-Garonne, Landes, Gers, Basses-Pyrénées, Hautes, Pyrénées, Charente, Dordogne, Corrèze 及 Ariège.		七名 (女子)一名	Bordeaux (二名(女子)一名) Agen, Pau, La Rochelle, Angoulême, Brive.	Bordeaux.
第九	Aude, Pyrénées-Orientales, Herault, Aveyron, Cantal, Lozère, Tarn, Haute-Garonne, Tarn-et-Garonne 及 Ariège.		七名 (女子)一名	Carcassonne, Béziers, Montpellier, Rodez, Castre, Toulouse (二名(女子)一名)	Toulouse.

第十	Bouches-du-Rhône, Var, Alpes-Maritimes, Corse, Varneuse, Basses-Alpes, Fréme, Hautes-Alpes, Gard 及 Ardèche.	十名 (女子)一名	馬耳塞(四名、女子一名) Toulon, Nice, Avignon, Valence, Nîmes, Privas.	馬耳塞
第十一	Rhône, Ain, Isère, Savoie, Haute-Savoie, Puy-de-Dôme, Loire 及 Haute-Loire.	十一名 (女子)一名	Lyon (四名(女子)一名) Grenoble, Chambéry, Saint-Étienne (二名) Roanne, Thiers, Clermont-Ferrand.	Lyon.

第四條 各管區内ニ於ケル府縣監督官ノ管轄區域ハ省令ヲ以テ之ヲ定ム
 第五條(追加一九一六年一月一日命令) 勞働監督官ハ願ニ依テ休職ヲ命セララルコトヲ得

勞働監督官ハ一回又ハ數回ニ三年以上休職スルヲ得
 休職中ノ勞働監督官ハ昇級及俸給ヲ受クルノ權利ナシ
 休職中ノ勞働監督官ハ願ニ依リ復職ヲ命セララルコトヲ得主務大臣ハ豫算上準備ノ金餘裕アル場合ニハ復職願書受領後第一ニ同等官級者中ニ缺員ヲ生シタル時其ノ駐在地ヲ定メ之ヲ復職セシム
 休職監督官ハ休職期間經過前其ノ復職又ハ休職期間延期ノ願書ヲ提出セサルトキハ大臣ノ有效ナリト認ムル辨明書ヲ差出ササル限り當然辭職シタルモノト見做ス該辨明書ハ大臣ヨリ催告アリタル場合ニハ其ノ時ヨリ八日以内ニ催告ヲキ場合ニハ休職期間經過後三箇月以内ニ之ヲ差出スコトヲ要ス

若シ上記期間内ニ差出ササルトハ懈怠ニ依リ失權ス大臣ノ催告ハ監督官ノ官廳ニ届出ヲタル最後ノ住所ニ宛テ書留郵便ニテ通知スヘシ
 復職シタル休職監督官ハ休職ノ際有セシ官級及勤務期間ヲ保有ス
 監督官ニシテ國家府縣市町村殖民地保護國及國家ノ營造物ノ他ノ職務ニ従事スル場合ニハ休職セルモノト見做サス但シ勞働監督官ハ恩給ニ關スル一九一三年十二月三十日法律第三十三條ノ條件ニ從ヒ且ツ公益ノ爲ニナスニアラサレハ他ノ職務ニ従事スルヲ得ス他ノ職務ニ従事スル勞働監督官ハ年金及定期進級ノ權利ヲ保有ス
 他ノ職務ニ従事セル監督官ハ願ニ依リ復職ヲ命セララルコトヲ得主務大臣ハ豫算上準備金ノ餘裕アル場合ニハ復職願書受領後第一ニ同等官級者中ニ缺員ヲ生シタル時其ノ駐在地ヲ定メ之ヲ復職セシム
 第六條 勞働法第二編第四百條ノ規定スル監督官候補ノ年俸ハ二千七百フラントス
 第七條(改正一九一四年十二月七日命令) 府縣監督官ハ之ヲ五級ニ別テ其ノ年俸ヲ左ノ如ク定ム

- 第五級 三千フラン
 - 第四級 三千五百フラン
 - 第三級 四千フラン
 - 第二級 四千五百フラン
 - 第一級 五千フラン
- 各級ノ府縣監督官ノ員數ハ左ノ如ク定ム
 府縣監督官

一級二級合計最多數四十一名内一級ハ十八名以下トス
四級五級及試補合計最少數四十一名、

府縣監督官(女子)

一級二級合計、七名以下内一級ハ三名以下トス
四級五級及試補合計、七名以上、

第八條 管區監督官ハ之ヲ三級ニ別テ其ノ年俸ヲ左ノ如ク定ム

第三級 六千フラン

第二級 七千フラン

第一級 八千フラン

管區監督官ノ員數ハ第一級四名以下第三級四名以上トス

第九條 監督官及女子監督官ハ同一級ニ三年勤務セサレハ一級昇級スルヲ得ス

管區監督官ハ第二級府縣監督官以上ノ者ヨリ選任ス

第一管區監督官ヲ補佐シ其ノ缺勤ノ場合ニ之ニ代ハルヘキ府縣監督官ハ昇級表上管區監督官級ニ編

入セラルル府縣監督官中ヨリ選任ス

第十條(追加一九一六年一月一日命令) 管區又ハ府縣監督官ノ各級ノ人員カ休職監督官ノ復職ニ依リ第七條及第八條ニ

規定スル其ノ定員ニ超過シタル場合ニハ定員以下ニ減少スル迄下級監督官ヲ昇級セシムルヲ得ス

第十一條 監督官及女子監督官ノ臨檢費用ハ勞働大臣ノ決定ヲ以テ定メタル手續ニ從ヒ左ノ表ニ依リ各場合毎ニ之ヲ定ム

職名	旅		費		日當
	公共用車馬	個人用車馬	汽車	電車馬車、船等	
管區監督官	一等賃金	實費	一キロメートル毎ニ五十サンチム	一日二十フラン	
府縣監督官	二等賃金	實費	一キロメートル毎ニ五十サンチム	一日十五フラン	

個人用車馬ヲ乗用スル場合ニハ一行程合計六キロメートル以上ニシテ公共用車馬ヲ利用スルコト不可能ナリシ時ニ非サレハ費用ヲ請求スルヲ得ス

公共用車馬ノ便アルニ拘ラス個人用車馬ヲ使用シタル場合ニハ前者ニ對スル費用ノミヲ請求スルヲ得但シ其ノ己ムコトヲ得サリシコトヲ管區監督官ノ認メタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

日當ハ三等分シ之ヲ食事二回及外泊ニ充當ス日當全額ノ支給ヲ受クルニハ食事二回及外泊ヲ爲スヲ要ス省令ヲ以テ各監督官ニツキ其ノ實費支拂ノ臨檢費用ノ最高金額ヲ定ム、實費支拂ノ費用ハ事務ノ必要上勤務地ニ應ジ其ノ全部又ハ一部ヲ一定費用ヲ以テ代フルコトヲ得ヘシ

監督官職務上必要アリ其ノ管轄區域外ニ出張スル場合ニハ其ノ費用ハ臨檢費用ト同シク其ノ表ニ依リ各場合毎ニ之ヲ定ム

第十二條 管區監督官及府縣監督官ニ各三箇月毎ニ後拂ニテ事務所費用トシテ支給スヘキ一年度ノ經費ハ命令ヲ以テ其ノ額ヲ定ム

第十三條 一九〇五年五月七日命令ハ之ヲ廢止ス

(二) 一九〇七年五月三日命令

勞働監督官ノ進級及懲戒ニ關スル件

第一條 勞働監督官ノ進級ハ進級表ニ依リ之ヲ行フ進級表ハ各年度ノ終リニ於テ勞働大臣之カ爲特ニ設ケラレタル委員會ノ提案ニ基キ之ヲ決定ス

第二條 進級表ハ毎年之ヲ定ム、新進級表ノ定メラレタルトキハ舊進級表ハ當然其ノ效力ヲ失フ

勞働大臣ハ毎年進級委員會ノ召集ニ先テ進級表ニ記載セラルヘキ監督官ノ員數ヲ決定ス

監督官ハ進級表ニ記載セラルルニ非サレハ進級セシメララルコトヲ得ス

進級表ハ勞働監督報告書ニ掲載ス

第三條 進級委員會ノ議長ハ勞働大臣トス勞働大臣事故アルトキハ勞働局長之ニ任ス
進級委員會ハ左記ノ委員ヲ以テ組織ス

勞働局長

勞働大臣ノ任命スル勞働課長又ハ同副課長一名

勞働大臣ノ任命スル勞働高等委員會ノ委員一名

勞働高等評議會ノ勞働職工委員三名、勞働大臣ハ委員會召集二月前ニ之ヲ任命ス委員ハ三年以上繼續就任スルヲ得ス

勞働監督局長

勞働管區監督官十一名

勞働管區監督官十一名

勞働府縣監督官三名、第四條ニ規定スル進級條件ヲ缺欠スル監督官中ヨリ府縣監督官之ヲ選舉ス

管區監督官ハ同級又ハ上級ノ監督官ノ資格ヲ協議スル場合ニハ議決權ヲ行フヲ得ス

委員タル府縣監督官ハ管區監督官ノ資格及府縣監督ノ管區監督官ニ昇級スル資格ヲ協議スル場合ニハ議決權ヲ行フヲ得ス

可否同數ナル場合ニハ議長之ヲ採決ス

進級委員會ハ其ノ總委員ノ三分ノ二以上出席スルニ非サレハ議決ヲ爲スヲ得ス

第四條 監督官ハ同一官級ニ三年以上勤務ノ後ニ非サレハ進級スルヲ得ス但シ次年度ノ中間ニ於テ定

年ニ達スル監督官ハ其ノ年度ノ進級表ニ記載セラルルコトヲ得

管區監督官ハ第二級以上ノ府縣監督官中ヨリ之ヲ選任ス

第五條 進級ハ一九〇五年五月七日命令ノ定ムル制限内ニ於テ左記ノ區別ニ從ヒ定年進級又ハ選抜ニ

依リ之ヲ行フ

依リ之ヲ行フ

府縣監督官

府縣監督官

管區監督官

管區監督官

管區監督官

管區監督官

管區監督官

管區監督官

管區監督官

管區監督官

管區監督官

管區監督官

管區監督官

管區監督官

中ニ第七條列記ノ懲戒ヲ受ケタル者ハ之ヲ除外スルコトヲ得
撰拔進級ト定年進級ト同時ニ行ハルル場合ニハ前二項ノ順序ニ從ヒ各別ニ之ヲ進級表ニ記載スヘシ
第七條 勞働監督官ノ懲戒處分ハ左ノ如シ

一、譴責

二、轉所

三、定年延期

四、減級又ハ減官

五、停職

六、免職

懲戒ハ勞働局長ノ報告ニ基キ勞働大臣之ヲ命令ス尙譴責及轉所以外ノ場合ニハ第八條ニ規定スル懲戒委員會ニ附議スルコトヲ要ス

減級又ハ減官ノ處分ヲ受ケタル監督官ハ舊官級ニ於ケル勤務期間ヲ保有ス

懲戒ヲ受ケタル監督官ハ懲戒委員會ノ通告ニ依リ進級表ヨリ之ヲ削除スルコトヲ得

第八條 懲戒委員會ハ每年之ヲ組織ス

懲戒委員會ノ委員ハ左ノ如シ

勞働局長(議長)

勞働高等委員

勞働大臣ノ任命セル勞働高等委員一名

勞働監督局長、其事故アル場合ニハ

勞働大臣ノ任命セル勞働管區監督官一名

互選ニ依ル勞働管區監督官二名

互選ニ依ル勞働府縣監督官二名

互選ニ依ル勞働管區監督官ハ管區監督官ニ關スル審議ニノミ出席ス勞働府縣監督官ハ府縣監督官ニ關スル場合ニノミ出席ス

管區監督官及府縣監督官ハ委員ヲ互選スルト同時ニ之ト同數ノ補缺委員ヲ互選ス

勞働大臣ハ勞働高等委員ヲ懲戒委員ニ任命スルト同時ニ其ノ補缺委員ヲモ任命ス

勞働大臣ハ監督官ニ懲戒スヘキ行爲アリト思料スルトキハ該監督官ヲシテ辯明書ヲ提出セシム、此辯明ノ不充分ナリシトキ又ハ適當ナル辯明ヲ爲シ得スシテ辯明書提出期間ヲ經過シタルトキハ勞働大臣ハ勞働局長ノ報告ニ基キ之ヲ懲戒委員會ノ議ニ附スルコトヲ得

監督官ヲ懲戒委員會ノ議ニ附スル命令ハ之ヲ以テ同時ニ其ノ職權ヲ停止スルコトヲ得但シ其ノ俸給ハ大臣ノ決定ヲ爲ス迄之ヲ支給ス

前項ノ命令ヲ以テ監督官又ハ他ノ官吏一名ヲ懲戒委員會ニ於ケル報告者ニ任命シ又懲戒委員會ノ書記ヲ指定ス

記録ハ委員會ノ開會前三日間當事者ノ閱覽ニ供スヘシ此期間内委員モ亦之ヲ審査スルヲ得ヘシ
委員會ハ五名以上出席スルニ非サレハ成立セス

當事者ハ辯明ヲナス爲委員會ニ出席スルヲ要ス尙當事者ハ委員會ニ辯明書ヲ呈出シ又ハ辯護人ヲシ

ヲ陳述セシムルヲ得

當事者召喚ニ應セス又ハ何等正當ナル辯明ヲ爲ササル時ハ當事者缺席ノ儘議決ヲ爲ス
報告者及書記ハ評議及決議ニ加ハラヌ
決議ハ無記名投票トス可否同數ナル場合ニハ被告ニ利益ナル意見ヲ採用ス
懲戒委員會ノ決議ノ後委員長ハ決議錄及委員會ノ意見ヲ復命書ト共ニ大臣ニ廻送ス

第九條 一九〇七年十一月十三日命令及一九〇三年一月七日命令ニ依リ改正セラレタル一八九五年六月十六日命令ハ之ヲ廢止ス

(三) 一九一二年五月三十一日省令

名譽管區監督官ノ任命條件ニ關スル件

勞働監督ノ職ヲ辭シテ後名譽管區監督官ニ任命セララルルコトヲ得ル者ハ左ノ如シ

一、一八七四年五月十九日法律又ハ一八九二年十一月二日法律ニ定メタル制度ノ下ニ於テ事實上管區監督官ト同一ノ職務ヲ行ヒタル官吏

二、府縣監督官ニシテ辭職シタル時管區監督官トシテ進級表ニ記載セラレタル者

三、府縣監督官ニシテ辭職シタル時管區監督官トシテ進級表ニ記載セララルルニ足ル定年資格ヲ具備シタル者

一九〇九年三月十一日、一九一一年二月六日及一九一一年十一月二十日命令ニ依リ改正セラレタル一九〇七年五月三日ノ命令第一條乃至第三條ニ規定セラレタル進級委員會ハ前項第三號ノ官吏ノ請求アリタル時ハ其ノ通告ヲ與フヘシ

(四) 一九〇七年七月三十日省令

職員名簿ノ通知ニ關スル件

第一條 勞働大臣ニ隸屬スル官吏及雇員ハ一九〇五年度ノ會計法第六十五條ニ從ヒ覺書、履歷書、其ノ他總テ記録ヲ作成スヘキ書類ノ私的又ハ機密上ノ通知ヲ爲ス權利ヲ有ス該通知ハ懲戒又ハ轉任ノ前ナルト定年進級ヲ猶豫スル場合トニ限ラサルモノトス、前記官吏及雇員ハ毎年十月及十二月ノ間ニ其ノ記録ノ通知ヲ受ク可キモノトス

第二條 前條ノ通知ハ左ノ手續ニ從ヒ之ヲ爲ス

中央行政官吏ニ關シテハ職員課ニ對シテ之ヲ爲ス

地方官ニ關シテハ地方事務長又ハ其ノ任命セル官吏ニ對シテ之ヲ爲ス

第三條 雇員ハ總テ主務大臣ノ明示ノ許可ナクシテ其ノ記録ノ謄本ヲ作成スルヲ得ス

(五) 一九一三年十月三日省令

府縣監督官ノ監督區域(改正一九一四年一月十七日省令)

勞働監督官ニ對シ一九一三年九月二十二日命令第八條第五項ニ定ムル實費拂ノ巡回費用ニ代ヘ支給スルコトヲ得ル定額拂ノ巡回費用及前記實費拂ノ巡回費用ノ最高額ハ左ノ如ク之ヲ定ム

管區	駐在地	實費拂ノ費用 ノ最高額	定額拂ノ費用
第一 管區監督官	巴里	五〇〇フラン	三〇〇フラン
府縣監督官幹事	巴里	一〇〇〇	一五〇〇
一、府縣監督官	巴里		

第一、第二、第三、第四、第五、第六、第七、第八、第九、第十、第十一、第十二、第十三、第十四、第十五、第十六、第十七、第十八、第十九、第二十、第二十一、	巴里	一〇〇〇	六〇〇
第二十二、	Versailles.	一七〇〇	二〇〇
第二十三、	巴里	一〇〇〇	九〇〇
第二十四、	巴里	一七〇〇	二〇〇
第二十五、	巴里	一七〇〇	六〇〇
第二十六、	巴里	一七〇〇	六〇〇
第二十七、	巴里	一七〇〇	六〇〇
第二十八、	巴里	一七〇〇	六〇〇
第二十九、	巴里	一七〇〇	六〇〇
第三十、	巴里	一七〇〇	六〇〇
第三十一、	巴里	一七〇〇	六〇〇
第三十二、	巴里	一七〇〇	六〇〇
第三十三、	巴里	一七〇〇	六〇〇
第三十四、	巴里	一七〇〇	六〇〇
第三十五、	巴里	一七〇〇	六〇〇
第三十六、	巴里	一七〇〇	六〇〇
第三十七、	巴里	一七〇〇	六〇〇
第三十八、	巴里	一七〇〇	六〇〇
第三十九、	巴里	一七〇〇	六〇〇
第四十、	巴里	一七〇〇	六〇〇
第四十一、	巴里	一七〇〇	六〇〇
第四十二、	巴里	一七〇〇	六〇〇
第四十三、	巴里	一七〇〇	六〇〇
第四十四、	巴里	一七〇〇	六〇〇
第四十五、	巴里	一七〇〇	六〇〇
第四十六、	巴里	一七〇〇	六〇〇
第四十七、	巴里	一七〇〇	六〇〇
第四十八、	巴里	一七〇〇	六〇〇
第四十九、	巴里	一七〇〇	六〇〇
第五十、	巴里	一七〇〇	六〇〇

二百十八

(七) 一九一二年八月九日命令

労働監督官ノ巡廻費ニ關スル前渡金ノ件

労働監督官ニ對シ實費拂巡廻費ニ付キテハ前渡金ヲ爲スヲ得
 前項ノ前渡金ハ労働監督官巡廻費トシテ定メラレタル一年度最高額ノ六分ノ一ヲ超ユルヲ得ス
 労働監督官ハ労働監督局ノ組織ニ關スル一九〇五年五月十七日法律(一九〇六年七月十一日、一九〇八年三月十九日、一九〇九年四月三日、一九一一年八月十四日命令ニ依リ改正)第八條ニ規定ス

ル旅費覺書ヲ提出シテ前渡金ノ用途ヲ證明スヘシ
 此證明書ハ二箇月以内ニ提出スルヲ要ス

(八) 一九一三年十月四日省令

労働監督官ニ支給スヘキ事務所ノ經費ヲ定ムル件

一九一三年九月二十二日命令第九條ニ規定スル事務所ノ經費ハ左ノ如ク之ヲ定ム

- 管區監督官
- 第一管區 二千二百法
 - 第五管區 千八百法
 - 其ノ他ノ管區 千五百法
- 府縣監督官
- 第一管區内ニテ檢査ニ從事スル府縣監督官 百法
 - 各一區ヲ監督スル府縣監督官 百法
- 労働監督事務ニ關スル郵稅免除

書狀差出人	書狀受取人	書狀ノ形式	免稅配達區域	免稅ヲ定メタル命令
管區監督官	府縣監督官 管區監督官及 府縣監督官	封書 無封ノ書狀	管轄管區内 全國	一九〇七年八月一日命令 一九〇六年十二月十三日命令
	知事	同上	管轄管區内	同上

二百十九

第一條 建築業、各種ノ製造工場、水陸運送業、荷物積卸業、倉庫、採鑛業、採石業、其ノ他爆發物ヲ製造シ又ハ使用スル事業及人又ハ動力以外ノ動力ニ依リ運轉セル機械ヲ使用スル事業ニ備使セララルル労働者及雇員ノ労働ヲ爲スニ依リ又ハ其ノ労働ノ際ニ遭遇シタル災害ニ依リ休業スルコト四日ヲ超ユル場合ニハ事業主ハ本人又ハ其ノ代理人ニ補償金ヲ支給スルヲ要ス

常時單獨ニテ労働スル労働者カ偶々同僚ト共同作業スルニ依リ本法ノ適用ヲ受クルヲ得ス

第二條 前條ノ労働者又ハ雇員ハ其ノ業務中ノ災害ニ就キテハ本法ニ據ルノ外權利ノ主張ヲ爲スコトヲ得ス

年給二千四百フランヲ超ユル場合ニハ二千四百フラン迄本法ノ適用ヲ受ケ其ノ超過額ニツキテハ別段ノ契約ナキ限り第三條規定ノ年金ノ四分ノ一ヲ受クルモノトス

第三條 第一條規定ノ場合ニハ労働者又ハ雇員ハ左ノ補償ヲ受ケ

永久且ツ全部ノ労働不能ノ場合ニハ年給ノ三分ノ二ニ相當スル年金

永久且ツ一部ノ労働不能ノ場合ニハ災害ニ依リ年給ノ減少セル額ノ二分ノ一ニ等シキ年金

一時ノ労働不能ノ場合ニハ労働不能四日ヲ超ユル場合ニ定額ノ賃金ノトキハ日々賃金ノ半額ニ等シキ補償金ヲ平日休日及祭日ノ區別ナク毎日支給シ定額賃金ニ非サルトキニハ災害前一箇月間ノ平均賃金ノ半額ヲ毎日支給ス補償金ハ災害後五日目ヨリ之ヲ支給ス但シ労働不能十日以上繼續スル場合ニハ第一日ヨリ之ヲ支給ス。此補償金ハ事業場ノ普通支拂日ニ普通支拂場所ニ於テ支給ス但シ其ノ支拂日ノ間隔ハ十六日ヲ超ユルヲ得ス

災害ノ結果死亡シタル場合ニハ其ノ死亡ノ日ヨリ左記ノ者ニ對シ左ノ條件ニ從ヒ年金ヲ支給ス

一、離婚又ハ別居セサル生存配偶者ニ對シテハ死亡者ノ年給ノ百分ノ二十二ニ等シキ年金ヲ支給ス但シ災害發生前ニ結婚シタルコトヲ要ス

生存スル配偶者ハ再婚スル場合ニハ年金ヲ受クル權利ヲ失フ此ノ場合ニ年金ノ三倍ノ額ヲ一時補償金額トシテ支給ス

二、父又ハ母ヲ失ヒタル嫡出子又ハ災害前認知サレタル私生兒ニシテ十六歳未滿ノ者ニ對シテハ

其一人ナル場合ニハ死亡者ノ年給ノ百分ノ十五、二人ナル場合ニハ百分ノ二十五、三人ナル場合ニハ百分ノ三十五、四人以上ナル場合ニハ百分ノ四十七年給トシテ支給ス

父及母ヲ失ヒタル孤子ニ對シテハ各自ニツキ年給ノ百分ノ二十ノ年金ヲ支給ス

年金ノ合計ハ第一ノ場合ニハ年給ノ百分ノ四十七又第二ノ場合ニハ百分ノ六十七ヲ超ユルヲ得ス

三、死亡者ニ第一號及第二號ニ規定セル配偶者及子ナキ場合ニハ其ノ扶養セル各尊屬親及卑屬親ニ對シ尊屬ニハ終身年金ヲ卑屬ニハ其ノ十六歳ニ達スル迄年金ヲ支給ス此年金ハ死亡者ノ年給ノ百分ノ十トス但シ合計百分ノ三十七ヲ超ユルコトヲ得ス

前項第三號ノ年金ハ必要ナル場合ハ比例的ニ減額セラル本法ニ依ル年金ハ權利者ノ住所又ハ住所地ノ郡廳所在地ニテ之ヲ支拂フ年金ヲ國立恩給金ヨリ支拂フ場合ニハ權利者ノ指定シタル事務所ニ於テ支拂フモノトス

年金ハ三箇月分ヲ各三箇月目毎ニ支拂フ但シ裁判所ハ第一回年金ノ半額ノ前拂ヲ命スルコトヲ得本法ノ年金ハ讓渡スルコトヲ得又強制執行ノ目的タルコトヲ得ス

災害ヲ受ケタル外國労働者ニシテ佛國ニ居住セサルニ至ル場合ニハ其ノ年金ノ三倍ニ等シキ金額ヲ

補償全額トシテ一時ニ之ヲ受クヘシ

二百二十四

罹災者タル外國労働者ノ妻子尊屬親又ハ卑屬親ニシテ補償金ヲ受クル者佛國ニ居住セサルニ至ル場合亦前項ト同シ但シ其ノ金額ハ第二十八條ニ規定スル表ニ從ヒ年金ノ現在價格ヲ超ユルヲ得ス
外人労働者ノ代理人タル外國人ハ災害當時佛國內ニ居住シタル者ニ非サレハ補償金ヲ受取ルコトヲ得ス

前三項ノ規定ハ本條ノ規定スル補償金ノ制限内ニ於テ條約ニ依リ或外國人ニツキ之ヲ變更スルヲ得但シ其ノ外國人ノ本國ニ於テ佛國人ニ對シ同等ノ利益ヲ認ムル場合ニ限ル

第四條 事業主ハ補償金ノ外向醫療醫藥及葬儀ノ費用ヲ負擔ス葬儀費ハ最高百フラン以内ニテ之ヲ定ム

罹災者ハ常ニ自ラ其ノ醫師及藥劑師ヲ選擇スルヲ得此場合ニハ事業主ハ災害發生地タル郡ノ治安裁判所ノ定ムル醫療醫藥費ヲ負擔ス治安裁判所ハ醫藥費ヲ定ムル場合ニハ商務大臣(註)カ醫師會藥劑師會労働組合、事業主組合ノ代表者、労働災害保險會社代表者及保証組合ノ代表者ヲ以テ組織スル特別委員會ニ諮問ノ上制定スル命令ヲ以テ定ムル表ニ基キテ之ヲ爲ス但シ二年間變更スルヲ得ス

(註)現在ノ労働大臣總テ本法及ヒ本法ノ規定ヲ擴張スル法律及ヒ此等

法律ノ施行ニ關スル法令ニ關シテハ同様ナルコトヲ注意スヘシ

(改正一九一七年)

三月十五日

事業主ハ總テノ場合ニ於テ第三條規定ノ義務ノ外入院費ヲ負擔ス入院費ハ

一切含メテ一八九三年七月十五日法律第二十四條ノ適用ノ爲制定セラレタル表ヲ五割増セルモノヲ超ユサル範圍ニ於テ巴里ニ於テハ一日五フラン七十五オンチム其ノ他ノ地方ニ於テハ五フランヲ

超ユルヲ得ス

醫師、藥劑師及病院ハ事業主ニ對シ直接訴フルコトヲ得療養中事業主ハ罹災者ノ容態ヲ報告セシムル爲裁判所ニ對シ醫師ヲ指名スルコトヲ得此指定ヲ裁判官カ署名シタル場合ニハ該醫師ハ主治醫立合ノ上每週罹災者ヲ診断スルヲ得此診断ハ二日前ニ書留郵便ニテ豫告スヘシ

罹災者此診断ヲ承諾セサルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ補償ノ支給ヲ停止スルコトヲ得ヘシ
裁判所ハ罹災者ヲ單純ナル書留郵便ニテ召喚スヘシ

醫師罹災者ノ就業シ得ルコトヲ証明シ且ツ罹災者之ニ異議ヲ申立ツルトキハ事業主ハ一時的労働不能ノ場合ニハ裁判所ニ身体検査ヲ請求スヘシ裁判所ハ身体検査ヲ五日以内ニ之ヲ行フヘシ

第五條 事業主ハ左ノ事項ヲ証スルトキハ左ニ特定スル如ク災害ノ日ヨリ三十日、六十日又ハ八十日間罹災者ニ對スル醫療醫藥費及一時的補償金ノ全部又ハ一部ヲ支拂フ義務ヲ免ルルコトヲ得

一、労働者ヲ共濟組合ニ加入セシメ且ツ主務官廳ノ認可シタル公定表ニ從ヒ合意ニ依リ釀金ノ三分ノ一ヲ下ラサル出資ヲ負擔センコト

二、共濟組合ハ其ノ組合員ニ對シ負傷ノ場合ニハ三十日、六十日、又ハ八十日間醫療及醫藥ヲ給シ且ツ之ニ毎日ノ補償金ヲ支給スルコト

若シ組合ノ支給スル日々ノ補償金カ罹災者ノ日給ノ半ヨリ少キトキハ事業主ハ其ノ差額ヲ補給スルヲ要ス

第六條 鑛山、鑛地及採石場ニ於テハ一八九四年六月二十九日法律ニ依リ此等ノ事業内ニ設ケラレタル金庫又ハ相互共濟組合ニ毎年補助金ヲ支出スルトキハ前條ノ費用及補償金ヲ支拂フノ義務ヲ免ル

二百二十五

ルコトヲ得

二百二十六

此補助金ノ金額及條件ハ組合ノ承諾ヲ得且ツ労働大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス
第一項以外ノ工業ニ於テモ一八九四年六月二十九日法律第三章ニ從ヒ其ノ労働者ノ爲ニ救済金庫ヲ
設立シタル場合ニハ前二項ヲ適用ス是等ノ金庫ニ關スル認可ハ商工大臣之ヲ與フ

第七條 本法ニ基ク訴權ノ外罹災者又ハ其ノ代理人ハ雇主又ハ其ノ労働者及雇員以外ノ災害ノ責任者
ニ對シテ普通法ニ從ヒ其ノ生シタル損害ノ賠償ノ請求權ヲ有ス

罹災者ノ此損害賠償金ヲ得タル場合ニハ其ノ金額ヲ事業主ノ負擔スヘキ補償金額ヨリ之ヲ控除ス災
害ニ因リ永久ノ労働不能又ハ死亡シタル場合ニハ此損害賠償金ハ國立恩給局ヨリ年金トシテ之ヲ支
拂フ

此年金ノ方式ニ依リ支給サルル損害賠償ノ外災害責任者ハ罹災者ニ對シ或ハ訴訟ニ參加セル事業主
ニ對シ第三條及第四條ニ規定シタル補償金及費用ノ支拂ノ義務ヲ負擔ス

第三者タル災害責任者ニ對スル此訴權ハ罹災者又ハ其ノ相続人カ之ヲ行ハサル場合ニハ事業主ハ自
己ノ危険ニ於テ代リテ之ヲ行使スルコトヲ得

第八條 罹災者タル十六歳未満ノ労働者又ハ徒弟ニ支給スヘキ補償金ノ基礎トナルヘキ賃金ハ其ノ事
業ニ於ケル同一種類ノ壯年労働者ノ最低賃金ヨリ下ルコトヲ得ス但シ一時不能ノ場合ニハ十六歳未
滿ノ労働者ニ對スル補償金額ハ其ノ賃金ヲ超ユルヲ得ス

第九條 第十九條ノ改定期間後終身年金確定ノ場合ニハ罹災者ハ養老恩給局ノ罹災労働者ノ爲ニ制定
シタル表ニ從ヒ計算シ此終身年金ヲ設定スルニ必要ナル資金ノ最高四分ノ一迄ヲ現金ニテ支給セラ

ルルコトヲ請求スルヲ得ヘシ

罹災者ハ此資金又ハ前條ニ依リ最高四分ノ一ニ減少セラレタル資金ヲ以テ自己ノ死後其ノ配遇者ニ
最高其ノ二分ノ一ヲ移轉スヘキ終身年金ヲ自己ノ爲ニ設定スルコトヲ得此場合ニハ此移轉ノ爲ニ何
等事業主ノ負擔ヲ重カラシメサル爲終身年金ヲ減額スヘシ
本條ノ請求アルトキハ裁判所ハ略式手續ニ依リ之ヲ決定ス

第十條 年金ヲ定ムルニツキ基礎ヲ爲ス賃金ハ災害前十二月間當該事業ニ使用セラレタル労働者ニ在
リテハ該期間内ニ金錢又ハ實物ニテ現實ニ支給サレタル報酬ノ全部ニ依リ之ヲ計算ス

當該事業災害前十二月未滿使用セラレタル労働者ニ在リテハ賃金ハ其ノ雇傭ノ當初ヨリ現實ニ支給
サレタル報酬ニ加フルニ十二月ニ不足ナル期間内ニ於テ受クヘカリシ賃金トシテ其ノ期間ニ於ケル
其ノ労働者ト同種ノ労働者ノ平均賃金ニ依リ計算シタル金額ヲ合算シタルモノニ依ル

作業ヲ繼續のナラサル場合ニハ所得年額ハ作業期間ニ受領シタル賃金ト殘餘期間ニ於ケル其ノ所得
トニ依リ之ヲ計算ス

前各項ノ期間内ニ労働者カ自己ノ意思ニ基カスシテ例外的ニ休業シタル場合ニハ休業期間ヲ斟酌シ
テ平均賃金ヲ計算スヘシ

第二章 災害ノ届出及調査

第十一條 總テ労働不能ヲ生シタル災害ハ日曜日祭日ヲ除キテ四十八時間内ニ事業主又ハ其ノ係員ヨ
リ市町村長ニ之ヲ届出ツルヲ要ス市町村長ハ之ニ依リ調査ヲ作成シ且之ニ對スル受取證書ヲ交付ス
ヘシ

二百二十七

届書及調書ニハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ事業主ノ氏名稱號住所災害ノ性質時間精確ナル場所災害ノ發生原因負傷ノ性質及證人ノ氏名住所ヲ記載スヘシ

災害後四日以内ニ罹災者ノ復業セサル場合ニハ事業主ハ市町村長ニ罹災者ノ容態醫師ノ診斷及確定的ニ結果ヲ知り得ヘキ時期ヲ記載セル醫師ノ證明書ヲ提出スヘシ市町村長ハ之ニ對シテ受取證書ヲ交附ス

災害ノ届出ハ災害後一年以内罹災者及其ノ代理人前三項所定ノ手續ニ從ヒ之ヲ爲スコトヲ得
市町村長ハ命令ノ定ムル手續ニ從ヒ府縣勞働監督官及當該事業ノ監督ノ責ニ在ル鑛務技師ニ災害ノ通知ヲ爲スヘシ

一八九二年十一月二日法律第十五條(註)及一八九三年六月十二日法律第十一條(註)ハ本法ノ規定スル場合ニハ之ヲ適用セス

(註) 勞働法編纂ニ關スル一九二二年十一月二十六日法律ニ依リテ廢止セラレ

第十二條 診斷書提出後二十四時間及災害届出及五日以内ニ市町村長ハ災害發生地ノ州治安裁判所ニ調書及診斷書又ハ診斷書ノ提出ナキ場合ニハ其ノ旨ノ證明書ヲ移牒スヘシ

治安裁判官ハ前項ニ依リ提出セラレタル診斷書又ハ後ニ至リ罹災者ヨリ治安裁判所ニ提出セラレタル診斷書ニ依リ負傷又ハ終身ニ亘ル全部若ハ一部ノ勞働不能ヲ發生スヘキ場合或ハ罹災者ノ死亡シタル場合ニハ二十四時間ニ左ノ事項ヲ探求スル爲ニ證人訊問ヲ爲ス

一、災害ノ原因、性質、事情、
二、罹災者、罹災者ノ住居所、其ノ出生地及出生年月日、

三、傷害ノ性質、

四、補償金ヲ請求シ得ル權利者アル場合ニハ權利者、其ノ出生地及出生年月日、

五、罹災者ノ賃金ノ日額及年額

六、事業主ノ保險ヲ付シタル保險會社又ハ其ノ加入セル保證組合(Syndicat de Garantie)

治安裁判官及書記ノ手當ハ本法第二十九條及一九〇〇年四月十三日ノ財務法第三十一條ニ基キ定メラレタル表ニ從ヒ國庫ヨリ之ヲ前拂スヘシ

第十三條 審問ハ民事訴訟法第三十五條乃至第三十九條ニ規定スル手續ニ從ヒ利害關係人ノ立會ニテ又ハ利害關係人ヲ書留郵便ニテ緊急召喚ノ上之ヲ爲ス此調査ニ對シテハ異議ヲ申立ツルコトヲ得

治安裁判官ハ罹災者カ審問ニ出頭シ得サル場合ニハ罹災者ノ住居ニ赴クヘシ

治安裁判官ハ醫師ノ證明書ヲ不充分ナリト認ムル場合ニハ醫師ヲ指定シ之ヲシテ負傷者ヲ診察セシムルコトヲ得

治安裁判官ハ審問ニ出頭セシムル爲ニ鑑定人ヲ任命スルヲ得但シ政府直轄事業國ノ事業トシテ監督ヲ受クルノ營造物並公安上秘密ヲ守ルヘキ事業ニ付テハ審問ニ付テハ鑑定人ヲ任命スルヲ得ス

此等ノ場合ニハ營造物又ハ事業ノ監督又ハ管理ノ任ニ當レル官吏又鑛業ニ關シテハ坑夫保安委員ハ治安裁判官ニ其ノ報告書ノ謄本ヲ移牒ス此謄本ハ之ヲ審問調書ニ添付ス

審問ハ最モ短期間ニ且ツ最長災害後十日以内ニ之ヲ終了スルヲ要ス但シ調書ニ其ノ事實上不可能ナルコトヲ證明セラルル場合ハ此ノ限ニ在ラス治安裁判官ハ書留郵便ニ依リ訴訟當事者ニ對シ調査ノ

終了並正本ヲ書記課ニ寄託シタル旨ヲ通知ス、當事者ハ書記課ニ就キ五日ノ期間中ニ正本ヲ知り及
印紙税及手数料ヲ徴收セラルルコトヲシテ其ノ謄本一通ノ交付ヲ受タルコトヲ得。五日ノ期間經
過シタル時ハ調査書類ヲ縣ノ民事裁判所長ニ送附ス

第十四條 第十一條ノ規定ニ違反シタル事業主又ハ其ノ掛員ハ一「フラン」以上十五「フラン」以下ノ罰
金ニ處ス

一年以内ニ再ヒ違反シタルキトハ十六「フラン」以上三百「フラン」以下ノ罰金ニ處ス
本條ニ規定スル違反行為ニハ刑法第四百六十三條ヲ適用ス

第三章 裁判所事務管轄、裁判所ノ土地ノ管轄、訴訟手續、再審

第十五條 葬儀費及一時的補償金ニ關スル訴訟ハ其ノ請求金額ノ高ニ拘ラス災害ノ發生セル郡治安裁
判所ハ終審トシテ請求アリタルトキヨリ十五日以内ニ之ヲ終結判決ス

一時的ノ補償金ハ死亡シタル日又ハ負傷ノ治療セル日即罹災者ノ身体カ全然恢復シ又ハ永久勞働不
能トナリタル日迄支拂フコトヲ要ス此最後ノ場合ニハ補償金ハ第十六條ニ規定スル確定判決アル迄
之ヲ支拂フ但シ同條第四項ハ之ヲ留保ス

若シ當事者ノ一方カ醫師ノ證明書ヲ以テ勞働不能ノ永久ナルコトヲ主張スル場合ニハ治安裁判官
ハ管轄違ナリト判決ヲ以テ宣言スヘシ該判決ノ謄本ハ三日以内ニ民事裁判所長ニ之ヲ移牒ス

未タ補償金ノ決定ナキ場合ニハ之ヲ決定シ同時ニ治安裁判官ハ終審トシテ三百「フラン」未滿ノ醫藥
費ニ關スル訴訟ヲ裁判シ又其ノ三百「フラン」以上ナル場合ニハ金額ノ高ニ拘ラス判決後十五日以内
ニ控訴權ヲ條件トシテ裁判ス

一時的ノ補償金ニ關スル治安裁判官ノ判決ハ異議ニ拘ラス執行力ヲ有ス此判決ニ對シテハ法律ニ違
背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限り破棄院ニ上告スルコトヲ得

災害ノ外國ニテ發生シタル場合ニハ管轄治安裁判官ハ本條及第十二條ノ期限ニ從ヒ罹災者ノ所屬ス
ル造營物又ハ其ノ支所ノ所在地ノ郡治安裁判官トス

災害ノ佛國內ニテ罹災者ノ所屬スル造營物又ハ其ノ支所ノ所在以外ノ郡ニ於テ發生シタル場合ハ所
在地ノ郡裁判官ハ例外トシテ管轄權ヲ有ス但シ罹災者又ハ其ノ代理人ヨリ書留郵便ニテ災害發生地
所轄治安裁判官ニ本條ノ期間内又ハ第十三條ノ審問ノ終了セサル以前ニ申出スルコトヲ要ス

書記課ハ即時ニ申請者ニ受取證書ヲ送附シ尙同時ニ事業主及管轄權ヲ有スルニ到リシ治安裁判官ニ
之ヲ通知ス書記課ハ審問ニ關スル書類ノアル場合ニハ其ノ終了スルヤ即時ニ之ヲ管轄治安裁判官ニ
移牒シ第十三條ニ從ヒ之ヲ當事者ニ通知ス

若シ調査書類ノ災害地ノ裁判所長ニ移牒セラレタル後當事者ノ呼出前ニ罹災者又ハ其ノ代理人カ調
査終了前ニ前條ニ規定スル權利ヲ行使シ得サリシ旨ヲ疏明スルトキハ裁判長ハ相手方ノ承諾ヲ經テ
之ヲ罹災者ノ所屬スル營造物又ハ倉庫所在地ノ縣裁判長ニ移牒ス

第十六條 本法ニ規定スル其ノ他ノ補償金ニツキテハ罹災者カ審問終了前ニ死亡シタル場合其ノ他ノ
場合ニハ當事者ノ一方カ最初ニ死亡登錄證明書又ハ終身勞働不能ヲ認ムル當事者ノ合意書ヲ提出ア
リタルトキヨリ五日以内又ハ前條第三項ニ規定シタル治安裁判官ノ裁判ノ受領ヨリ五日間内ニ又ハ
此等ノ書類ノ提出ナキ場合ニハ第十八條ニ規定スル猶豫期間ノ滿了(之ノ滿了ノ日ハ災害者ニ通知
セラル)前五日以内ニ縣裁判所長ハ書類ノ移牒後五日以内ニ罹災者又ハ其ノ承繼人及事業主又ハ其ノ

代理人及保險者アル場合ニハ其ノ保險者ヲ召喚ス裁判官ハ當事者ノ承諾ヲ經テ八日以内ニ報告書ヲ提出スヘキ鑑定人ヲ任命スルコトヲ得

本法ノ規定ニ準據シテ當事者ノ合意成リタル場合ニハ補償金ハ裁判所長ノ命令ニ依リテ確定的ニ定メラル此命令ニハ基礎タル貸金及災害ニ依リ貸金ニ及ホスヘキ減額ヲ指示ス此指定ナキ命令ハ無効トス

合意成立セサルトキハ當事者ノ一方カ最初ニ訴訟ヲ提起シタル裁判所ニ於テ民事訴訟法第二編第二十六章ニ從ヒ即決事件トシテ之ヲ判決ス此判決ハ假執行ノ效力ヲ有ス

此場合ニハ裁判所長ハ命令ニ依リ毎日ノ補償金ニ代ヘ貸金ノ半額以下ナル給與ヲ權利者ニ給與スルヲ得此等ノ給與ハ急速審理ノ手續ニ依リ手續中ニ之ヲ給與シ又ハ變更スルヲ得此決定ニ對シテハ異議ヲ申立フルヲ得給與ハ讓渡スルヲ得又差押ノ目的タルヲ得ス且ツ毎日ノ補償ト同一方法ニ依リ支給セラルルモノトス

年金ハ死亡シタル日又ハ負傷ノ治癒シタル日ヨリ起算ス但シ年金ト前記ノ給與トハ相重複スルヲ得ス補償金又ハ給與ノ金額カ年金ノ決定期日迄ニ支給サルヘキ年金額ヲ超ユル場合ニハ裁判所ハ其ノ定ムル割合ヲ以テ以後ノ年金ヨリ其ノ超過額ヲ差引クコトヲ命スルヲ得

保險アル場合ニハ支給サル年金ノ高ヲ決定スル裁判所長ノ命令又ハ裁判ヲ以テ保險者カ第四章ノ規定ニ於ケル事業主ニ代位シ事業主ニ對スル總テノ罹災者ノ請求權ヲ廢棄スヘシ

第十七條 本法ニ依リ判決ハ普通法ノ規定ニ從ヒ控訴ヲ爲スコトヲ得但シ控訴ハ民事訴訟法第四百四十九條ノ特別ノ場合ヲ除クノ外對審判決ノ場合ニハ判決ノ日ヨリ三十日以内ニ缺席裁判ノ場合ニハ

故障期間滿了後十五日以内ニ控訴スルヲ要ス

缺席裁判ノ場合ニハ異議ハ判決書送達セラレ其ノ送達ノ日ヨリ十五日ノ期間ヲ經過シタル時ハ之ヲ受理セス

控訴院ハ控訴ヲ一月以内ニ遲滯ナク裁判ス當事者ハ破棄院ニ上告スルヲ得
治安裁判官裁判所控訴院ニ於テ醫學上ノ鑑定ヲ命スル場合ニハ負傷者ヲ治療セル醫師、事業ニ所属スル醫師又ハ事業主ノ加入スル保險會社ニ屬スル醫師ハ鑑定人タルヲ得ス

第十八條 本法ノ規定スル補償金ニ關スル訴ハ災害ノ日ヨリ又ハ治安裁判官ノ調査終了ノ日ヨリ或ハ一時的補償金ノ支拂中止ノ日ヨリ一年ヲ經過スルトキハ時効ニ依リ消滅ス

一八七一年八月十日法律第五十五條及一八八四年四月五日法律第二百二十四條ハ本法ノ施行ニ付テハ府縣市町村ニ對スル訴訟ニハ之ヲ適用セス

第十九條 罹災者ノ勞働不能ノ程度ノ昇進若ハ減退又ハ災害ノ結果ニ因ル死亡ニ基ク補償金ノ再審査ノ請求ハ年金ニ非サル場合ハ一時的補償金支拂滿了ノ日ヨリ三年間又ハ第二十一條ニ從ヒタル年金カ一時金ニ代ヘラレタル場合ニ兩當事者ノ合意成リタルトキ若ハ其ノ判決カ效力發生シタルトキヨリ三年間之ヲ爲スヲ得此等總テノ場合ニ於ケル再審査ニハ第十六條第十七條及第二十二條ニ定メタル管轄及訴訟手續ノ條件ヲ適用ス書記ニ單ニ届出手續ヲ爲スニ依リ裁判所長ニ顯出タルモノト看做サル

本法ノ規定ニ從ヒ當事者間ニ和解成立シタル場合ニハ變更シタル年金額ハ裁判所長ノ命令ニ依リ決定セラル裁判所長ハ此和解ニ付勞働不能ノ程度昇進又ハ減退ヲ明示スル調書ヲ作成ス勞働不能ノ昂

進ニ減退ノ明示ナキ調書ハ無効トス
和解ナキトキハ當事者ノ一方ハ最初ニ訴ヘタル裁判所ニ於テ第十六條ニ規定スル所ニ從ヒ即決事件トシテ裁列ス

再審ノ訴權ヲ行使シ得ル三年ノ間事業主ハ裁判所長ニ對シ罹災者ノ容態ニ關スル通知ヲ爲ス義務ヲ負フ醫師ヲ選任スルコトヲ得

前項ノ選任ハ裁判所ノ認可ヲ得タルトキハ醫師ハ三月ニ一度罹災者ヲ診察スルコトヲ得罹災者此診察ヲ承諾セザルトキハ續テ年金ノ支拂ハ裁判所長ノ決定ニ依リ之ヲ中止スヘシ裁判所長ハ單純ナル書留郵便ニテ罹災者ヲ呼出スヘシ

第九條ニ規定スル請求ハ少クトモ再審査ノ訴權ニツキ定メラレタル期間經過後一月内ニ之ヲ裁判所ニ爲スヲ要ス

第二十條 本法ニ定メテレタル補償金ハ故意ニ災害ヲ招キタル者ニ之ヲ支給セス
裁判所ハ災害カ労働者ノ辨解シ難キ過失ニ基クコトノ證明セラレタル場合ニハ第一條ニ規定スル年金ヲ減額スルコトヲ得又災害カ雇主又ハ之ニ代リテ指揮ヲ爲シタル者ノ辨解シ難キ過失ニ基クコトノ證明セラレタル場合ニハ補償金ヲ加重スルコトヲ得但シ年金額ハ減退額又ハ年給額ヲ超ユルヲ得ス

刑事訴追アリタルトキハ訴訟書類ハ罹災者又ハ其ノ承繼人ニ送付スヘシ
前項ト同一ノ權利ハ雇主又ハ其ノ代權人亦之ヲ有ス

第二十一條 當事者ハ罹災者ニ支拂フヘキ補償金ヲ確定シ且常ニ合意ニ依リ年金ノ支給ヲ停止シ又ハ

之ヲ他ノ賠償方法ヲ以テ代ユルコトヲ得

第三條ニ規定セラレタル場合ノ外年金カ其ノ全額百「フラン」以下ニシテ權利者カ成年者ナルトキハ一時金ノ支拂ヲ以テ之ニ代ユルコトヲ得但シ此ノ場合ニハ第二十八條ノ表ニ依ルコトヲ要ス

第二十二條 民事裁判所長及裁判所ニ對スル訴訟上ノ救助ノ利益ハ第一審裁判所ノ檢事ノ奥印ニ依リ當然罹災者又ハ其ノ代權人之ヲ受ク

檢事ハ一九〇一年七月十日法律ニ依リ改正セラレタル一八五一年一月二十二日法律第三十三條(第二項以下)ニ規定スル所ニ從ヒ手續ヲ爲ス

(改正一九〇六年四月十日) 訴訟上ノ救助ハ當然控訴ニモ適用ス事情ニ依リテハ控訴ノ擲棄ヲ表示スル行爲(七日法律第五十九條)ニモ適用ス控訴院第一裁判長ハ此ノ爲ニ提出シタル申請ニ基キ控訴院所屬ノ辯護人ヲ指定シ且之ヲ送達スル爲執達吏一人ニ委任スヘシ罹災者ハ控訴ニ關スル訴訟手續ノ總テニ付キ訴訟上ノ救助ヲ得シ爲救助局ニ申請スル場合ニハ其ノ貧窮ヲ證明スル書類ヲ提出スル義務ヲ免除セララル
訴訟上ノ救助ノ利益ハ治安裁判所ニ於ケル訴訟、動産及不動産ノ差押、判決執行ニ對スル附帶訴訟ニ付キテモ存續スルモノトス

第四章 保證

第二十三條 醫藥費、葬儀費及一時の勞働不能ニ依リ支給サル補償金ニ關スル罹災者又ハ其ノ代理人ノ債權ハ民法第二千一百一十六條第六號ニ規定セララル特權ヲ以テ保證セララル

死亡ノ結果ヲ生シタル災害又ハ永久的勞働不能ニ對スル補償金ノ支拂ハ次條以下ニ從ヒ保證セララル

第二十四條 債務者タル事業主一定保険料ヲ繳スル保險會社相互保險組合又ハ連帶保證組合ニテ災害ニ依リ死亡又ハ永久勞働不能ヲ生シタルトキ其ノ補償金ヲ要求セラルルニ當リ之ヲ支拂ハサルトキハ國立養老恩給局ハ利害關係人ニ對シ本法ニ依リ設置サレタル特別擔保資金トシテ其ノ管理ニ委託サレタル資金中ヨリ之ヲ支拂フヘシ

第二十五條 特別擔保資金ヲ設置スル爲第一條規定ノ工業營業稅ニ四「サンチム」(一錢六厘)ノ附加稅ヲ課ス鑛業ニハ其ノ鑛區一「ヘクトアール」毎ニ五「サンチム」ノ稅ヲ課ス此租稅ハ必要ニ應シ財務法ニ依リ増減スルコトヲ得

第二十六條 國立恩給局ハ上述ノ規定ニ依リ支拂ヒタル金額ヲ債務者タル事業主ニ對シ請求スルコトヲ得

事業主ノ保險契約ヲ爲セル場合ニハ恩給局ハ其ノ前拂金ノ支拂ヲ受タル爲保險者ノ支拂フヘキ保險金ノ上ニ民法二一〇二條ノ先取權ヲ有ス此ノ場合ハ事業主ニ對シテ請求スルコトヲ得ス
上述ノ規定ニ依リ恩給局ニ委任サレタル職務ノ組織及取扱特ニ債務者タル事業主又ハ保險會社保證組合ニ對シテ爲ス請求手續並罹災者又ハ其ノ承繼人ノ補償金支拂ヲ恩給局ニ請求スルニ付テノ條件ハ行政命令ヲ以テ定ム

裁判所ノ判決ハ事業主又ハ保險會社ニ對シ請求ヲ爲ス恩給局ノ勝訴ノ場合ニハ抵當權ヲ破ル

第二十七條 佛國及外國ノ相互保險會社又ハ特定保險料ヲ徵收スル保險會社ハ國家ノ監督及檢査ノ下ニ屬シ且命令ノ定ムル條件ニ從ヒ積立金又ハ保證金ヲ積立ツルコトヲ要ス保證金及數學的積立金ノ金額ハ補償金ノ支拂ニ先ツテ之ヲ充用ス

保證組合ハ國家ノ監督ニ屬ス其ノ設立及業務ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ定ム

商務大臣ハ何時ニテモ本法ノ定ムル條件ヲ満たササル保險者又ハ其ノ經濟狀態ノ其ノ契約履行ニ不充分ナル保險者ノ業務執行ヲ命令ヲ以テ停止セシムルコトヲ得此命令ハ保險者二十五日以内ニ書面ヲ以テ其ノ意見ノ提出ヲ命シタル後勞働災害ノ保險評議委員會ノ意見ニ從ヒ之ヲ發ス

本法ノ規定スル災害ニ對スル契約ハ總テ官報ニ該命令ヲ發布シタルトキヨリ十日後ノ正午ヲ以テ當然無効トス未拂ノ保險料又ハ前拂ノ保險料ハ經過セル保險期間ノ割合ニテ保險者ノ所得ニ屬ス但シ保險契約證券ニ別段ノ契約アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

勞働災害評議委員會ハ左ノ二十四名ノ委員ヲ以テ之ヲ組織ス

互選ニ依ル上院議員二名及下院議員三名、保險局長官、勞働局長官、預金局總裁、佛蘭西保險協會會員三名、Seine 商事裁判所長又ハ其ノ任命スル部長一名、巴里商業會議所長又ハ其ノ任命スル委員一名、勞働高等委員會ノ勞働委員二名、巴里大學法科教授一名、勞働災害保險相互組合又ハ保證組合理事者二名、勞働災害ニ對スル保險合資會社、匿名會社ノ理事者二名、勞働災害ニ對スル保險ニツキ特ニ智識ヲ有スル者四名

委員ノ任命、改任、議長副議長幹事ノ任命ハ命令ヲ以テ定ム

監督及檢査ニ要スル總テノ經費ハ積立金又ハ保證金ノ金額ニ比例シ且ツ商務大臣ノ命令ニ依リ各會社又ハ組合ニツキ毎年定ムル所ニ從ヒ分擔ス

第二十八條 本法ニ依リ支給セラルル年金ヲ代表スル資金ノ拂込ハ債務者ニ之ヲ要求スルヲ得ス但シ債務者カ一時ニ債務ヲ完済セント欲セハ年金ヲ代表スル資金ヲ國立退職恩給局ニ拂込ムコトヲ得、

雇給局ハ本法發布後六月以内ニ雇賃者及承継人ノ死亡率表ヲ作成スヘシ事業主其ノ死亡ニ依リ又ハ
意思ニ依リ精算又ハ破産、事業ノ讓渡ニ依リ事業ヲ廢シタルトキハ其ノ負擔タル年金ヲ代表スル資
金ハ當然辨濟期ニ達シ退職恩給局ニ拂込ヲ要ス此資金ハ其ノ辨濟日ニ於テ前項ニ規定スル表ニ從ヒ
テ決定セラルヘシ但シ事業主又ハ其ノ代權人ハ命令ヲ以テ定ムル所ノ保證ヲ提出スルトキハ此資金
ノ拂込ヲ免除セラルコトヲ得

第五章 通則

第二十九條 本法ニ依リ又ハ本法ノ執行ノ爲作成又ハ送附セラレタル調書、證明書、公正證書、通知書、
判決書及其ノ他ノ證書ハ無償ニテ交付シ郵税ヲ免除シ又ハ登録手續アル場合ニハ無償ニテ登録セラ
ルルモノトス

本法發布ヨリ六月内ニ命令ヲ以テ調書、證明書、送達書、判決書ノ作成、書留郵便ノ發送、審問調書ノ
提出、其ノ抄本ノ作成、其ノ他本法ノ權利上必要ナル一切ノ書類ノ手数料、治安裁判所書記ノ報酬並
權災者臨檢ノ費用及現場調査ノ費用ヲ定ム

第三十條 本法ト異ル契約ハ當然無効トス此無効ハ第十六條第二項及第十九條第三項ニ規定スル無効
ト同シト總テノ利害關係人ヨリ同條ニ規定スル裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ此等ノ場合ニハ訴訟
上ノ救助ハ一般法ノ條件ニ從ヒテ付與セラル

無効ヲ宣言スル決定ハ其ノ確定セルトキヨリ再ヒ時効又ハ再審ノ爲ノ期間ノ進行ヲ始ム
第十五條乃至第十七條及第十九條ニ規定スル訴訟又ハ和解ニツキ豫メ協定セル報酬ニ依リ權利者ノ
利益ヲ確保スルノ仲立人トノ契約ハ其ノ報酬ニ關シテハ當然無効トス

左ノ事項ニ該當スル者ハ十六「フラン」以上三百「フラン」以下ノ罰金又一年以内ニ再犯ノ場合ニハ五
百「フラン」以上二千「フラン」以下ノ罰金ニ處ス此場合ニハ刑法第四百六十三條ノ規定ハ之ヲ留保ス
一、總テ前項ニ明示セル事務ヲ爲シタル仲立人
二、労働者又ハ雇員ノ賃金ヨリ本法ニ依リ自己ノ負擔ト定メラレタル災害ニ關スル保險ニ附スル爲
ニ其ノ金額ヲ控除シタル事業主
三、解雇又ハ本法ノ定ムル補償金ノ拒絶或ハ拒絶スヘキコトヲ以テ脅迫シ雇賃者ノ醫師ヲ選擇スル
權利ヲ侵害シ又ハ侵害セントシタル總テノ者
四、本法ノ適用ニ依リ交付スヘキ證明書中ニ故意災害ノ結果ニ不實ノ記載ヲ爲シタル醫師

第三十一條 事業主ハ各工場内ニ本法及本法ノ施行ニ關スル命令ヲ揭示スルヲ要ス揭示セザルトキハ
一「フラン」以上十五「フラン」以下ノ罰金ニ處ス

一年以内ニ再犯ノ場合ニハ罰金ハ十六「フラン」以上百「フラン」以下トス
労働監督官ハ第十一條及本條ノ違反ニ對シ檢證ヲナスコトヲ得

第三十二條 本法ハ海軍工廠ニ屬スル労働者、徒弟、日傭人ノ年金及陸軍大臣ニ屬スル兵器製造所ニ登
録サレタル労働者ノ年金ニ關スル法律命令規則ノ適用ヲ妨ケス
第三十三條 本法ハ其ノ施行ヲ規定スヘキ命令ハ公布アリタル時ヨリ三月ノ後ニ施行ス

第三十四條 「アルセリア」及殖民地ニ施行スヘキ條件ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
一、人又ハ動物ノ力以外ノ動力ニ依リ運轉サレル農業機械ノ使用ニ起因スル災害ニ關スル法律 (一八九九年六
月三十日法律)
單條 原動機ニ依リ運轉スル農業的機械ノ使用ニ依リ惹起サレタル災害ニシテ發動機又ハ機械ノ操縱

其ノ他ノ作業ニ従事スル者其ノ勞働ニ依リ又ハ勞働中ニ受ケタルモノナルトキハ其ノ原動機ノ利用者ノ負擔トス

自己ノ使用人ヲシテ原動機ヲ管理セシムル人又ハ法人ハ利用者ト看做ス

罹災者賃金ヲ受ケス又ハ確定セル賃金ヲ受ケサル場合ニハ補償金ハ一八九八年四月九日ノ命令ニ規定スル率ニ從ヒ當該市町村ノ農業勞働者ノ平均賃金ニ依リ之ヲ計算ス

一八九八年四月九日ノ法律ハ前項ノ場合ノ外農業勞働者ニ之ヲ適用セス

三、勞働災害ニ關スル一八九八年四月九日ノ法律規定ヲ商業的ノ事業ニ擴張スル件 (一九〇六年四月十二日)

第一條 勞働災害ノ責任ニ關スル法律ハ總テノ商業的ノ事業ニ擴張適用ス

第二條 第四條ニ基ク命令ノ公布後三月間ハ災害ニ對スル保險契約ニシテ同命令公布前ニ第一條規定ノ事業ニ關シ且ツ一八九九年四月九日一九〇二年三月二十二日及一九〇五年三月三十一日律ニ法規定セララルル危險ヲ保證セサルモノハ保險者又ハ被保險者之ヲ解除スルコトヲ得

解除ハ會社事務所又ハ地方ノ代理者ニ届出ヲナスニ依リ之ヲ行フ之レニ對シテハ受領書ヲ與フヘシ又解除ハ裁判所ノ證書又ハ書留郵便ニテ爲スヘシ契約ハ斯ノ如クニシテ總テ届出裁判所ノ證書ノ送達又ハ書留郵便ノ郵便局ニ寄托サレタル時ヨリ第十日ノ正午ニ解約セララルヘシ

未拂ノ保險料ハ解約ノ日迄期間ニ相當スル部分ヲ限り保險者之ヲ獲得スルコトヲ得前拂ノ保險料契約カ保險者ニ依リ解除サレザリシトキハ解約ノ時ヨリ最長六月迄ノ分ヲ收得スルヲ得超過額ハ之ヲ被保險者ニ返還スヘシ

第三條 保險者ハ若シ一八九八年法律ノ效力ヲ發生シタル場合ニハ其ノ定ムル危險ニツキ被保險者ヲ

保證シ又效力ヲ發生セサル場合ニハ民法上ノ責任ノ危險ヲ保證スル混合契約ハ前條ニ規定スル期間及手續ニ從ヒ解約スルトキハ全部效力ヲ失フ被保險者ノ解除ハ解除後八日以内ニ保險料ヲ増加スルコトナクシテ保險者ヨリ一八九八年四月九日、一九〇二年三月二十二日、一九〇五年三月三十一日ノ法律ニ特定セル危險ヲ保證スル旨ヲ明示シタル保險契約修正證書ノ送付アリタルトキハ其ノ效力ヲ生セス

前條ニ規定スル三月ノ期間當事者双方カ默過シタル場合ニハ何等手續ヲ經スシテ契約ヲ一八九八年四月九日一九〇二年三月二十二日及一九〇五年三月三十一日ノ法律ニ規定スル危險ニ適用セシム

第四條 一八九八年四月九日法律第二十五條ニ規定セル税金ハ該法ニ規定スル事業及凡テノ作業場ニツキ繼續徵收ス

税金ハ専ラ商業ニ關スル事業及商品寄托又ハ取扱所ニツキテハ「サンチーム」ニ減額ス此事業ノ表ハ本法ノ發布後六箇月以内ニ商務大臣及大藏大臣ノ提案ニ基キ勞働災害保險評議會ニ諮問ノ上發セラルル命令ヲ以テ之ヲ定ム該命令ハ五年毎ニ議會ノ協賛ヲ得ルヲ要ス

右ト同シ手續ニ依リ發セラルル命令ヲ以テ前項ニ規定セル税金ノ率ヲ一八九八年四月九日法律第二十五條ニ規定スル又ハ財務法ニ定ムル最大限ノ範圍内ニ於テ變更スルヲ得此命令ハ少クトモ變更ノ適用セララルニ至ル會計五年度ノ開始三月前ニ之ヲ官報ニ發布スルヲ要ス

第五條 一八九八年四月九日法律及一八九九年六月三十日法律ニ依リ規定スル事業ニシテ營業稅ヲ徵收セラレザルモノハ左ノ條件ニ從ヒ保證ノ資金ヲ負擔スヘシ

毎年各保險契約ニツキ一定ノ分擔金ヲ出ス分擔金額ハ財務法ニ依リ各五年毎ニ保險料ニ比例シテ之

ヲ定ム分擔金額ハ保險料ト同時ニ保險會社保證組合又ハ國立保險局之ヲ徵收シ保證資金ニ之ヲ拂込ムモノトス

保險セサル事業ニ於テハ其ノ負擔ニ歸セシメラレタル年金ヲ構成スル資金ニ比例シテ前項ト同シ手續ニ依リ定メラレタル率ノ分擔金ヲ徵收セラル此分擔金ハ該年金ヲ支給スル所ノ命令判決省令ノ登記ノ際ニ之ヲ清算セラレ且ツ登記所ニヨリ保證資本金ノ計算ノ爲ニ訴訟上ノ救助ニ於ケルト同様ニ回收セラル

年金ヲ構成スル資金ハ分擔金ノ徵收ノ爲ニ命令ニ依リ定メラレタル早見表及條件ニ從ヒ之ヲ決定ス一八九八年四月九日法律ノ施行トシテ年金ヲ支給スル所ノ命令判決省令ハ事業主ノ保險ヲ付シタルヤ否ヤ及營業免許ヲ受ケタルヤ否ヤヲ記載スルヲ要ス

災害ノ場合ニ保險會社保證組合又ハ國立保險局ノ拂込及登記所ノ徵收ヲナスヘキ條件並本條ノ施行ヲ確保スル爲ニ必要ナル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ命令ニ違反シタル者ハ總テ百「フラン」以上千「フラン」以下ノ罰金ニ處ス

第六條 一八九八年四月九日法律第二十四條ニ規定スル保證組合ハ其ノ工業ニ關スルト商業ニ關スルトヲ問ハス少クトモ五千人以上ノ被保險労働者及加入事業主十名以上ニシテ其ノ内五名ハ少クトモ三百人以上ノ労働者ヲ有スルカ又ハ少クトモ二千人以上ノ被保險労働者及加入事業主三百名其ノ内三十名ハ各々少クトモ三名以上ノ労働者ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

前項ノ組合ハ労働災害ニ對スル保險評議會ニ諮問シ元老院命令ニ依リ許可セラル組合ハ其ノ定款カ保評險議會ニ諮問ノ上元老院ノ命令ニ依リ承認セラレタル標準規約ニ合致スルトキハ省令ニ依リ許

可セラルルコトヲ得

第七條 本法ヲ Polgeine 及殖民地ニ適用スル條件ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 本法ハ第四條第二項ニ規定スル省令ノ發布ノトキヨリ三箇月後ニ效力ヲ生ス

四、労働災害ニ關スル法令任意加入スルコトニ關スル件 (一九〇七年七月十八日法律)

第一條 労働災害ノ責任ニ關スル法令ノ適用ナキ雇主ハ其ノ労働者雇員又ハ僕婢ノ労働上又労働ニ際シ遭遇セル災害ニツキ該法令ノ制度ノ下ニ属スルコトヲ得

雇主ハ其ノ事務所所在地事務所ナキ場合ニハ個人ノ住所地ノ市町村長ニ申立書ヲ提出ス市町村長ハ無償ニテ其ノ受領證書ヲ交附シ且ツ利害關係人ノ閱覽ニ供スル特別帳簿ニ之ヲ記載ス雇主ハ同時ニ其ノ被僱者ノ加入賛成ヲ記載セル手帳ヲ提出スヘシ市町村長ハ其ノ届出及其ノ期日ノ記載ヲ爲シテ之ニ認證ス

申立書及手帳ノ形式ハ命令ヲ以テ定ム (一九〇七年七月三十日命令一) (九〇七年七月三十一日官報)

手帳ハ時宜ニ依リ裁判所ニ提出スル爲雇主之ヲ保管ス

第二條 労働災害ニ關スル法令ハ當然總テ労働者僱主僕婢ノ前條ニ規定スル手帳ニ自ラ賛成シ署名シ期日ヲ記シタル者ニツキ適用セラル若シ労働者雇員又ハ僕婢カ書キ方ヲ知ラス又ハ署名ヲ爲スヲ得サルトキハ其ノ賛成ハ市町村長之ヲ受理シテ手帳ニ之ヲ記載ス未成年者及妻ノ賛成ニツキテモ亦同シ此場合ニハ父後見人又ハ夫ノ許可ヲ要セス

第三條 雇主ハ市町村長ニ特別ナル申立ヲ爲シ労働災害ニ關スル法律ノ適用ヲ受クルコトヲ將來ニ向ツテ廢止スルコトヲ得此申立ニ對シテハ直ニ受領書ヲ交附シ第一條ニ規定スル帳簿上ノ最初ノ申立

ノ次キニ之ヲ記載シ又手帳上ニ之ヲ記載ス

此廢止ハ労働者雇員又ハ僕婢ノ前條ニ規定スル手續ニ從ヒ労働災害ニ關スル法律ニ從フ旨ヲ承諾シタル者ニハ效力ナキモノトス

第四條 若シ傭主カ他ニ於テ労働災害ニ關スル法律ニ從フ義務ヲ負ハサルトキハ一九〇六年四月十二日法律第五條ニ規定スル條件ニ依リ保證資金ニ對シ出捐ヲ爲スヘシ

(五) 一九〇二年三月二十六日命令

一九〇二年三月二十二日法律ニ依リ改正セラレタル一九〇八年四月九日法律第十一條及第十五條ノ施行ニ關スル件

第一條 労働不能ヲ惹起セル災害ノ罹災者ニツキテハ一九〇八年四月九日法律ニ依リ規定スル場合ニ於テ災害ノ届出、届出ノ受領書、市町村長ノ調査、醫師ノ證明書ノ寄託、寄託ノ受領書、治安裁判所ニ書類ヲ送達監督官ニ對スル通告ハ法律ニ添付スル様式七ニ從ヒ之ヲ作成スヘシ
第二條 本法ハ一九〇二年五月一日ヨリ效力ヲ生ス

書式一

労働災害ノ届出

(一九〇八年四月九日法律第十一條一九〇二年三月二十二日法律改正)

何 某 (一)

一九〇二年二月二十二日法律ニ依リ改正セラレタル一九〇八年四月九日法律第十一條ニ從ヒ労働不能ヲ惹起セル災害ノ病發生セル旨ヲ御届出致候

災害ノ發生セル年月日時

場所(一)

罹災者(三)

災害ノ原因及狀況(四)

罹災者ノ負傷(五)

災害ノ證人(六)

拙者儀左ノ組合ニ労働災害保險ヲ付シ居申候(七)

某地ニ於テ作成ス

年 月 日

届出人署名

市 區 町 區 長 何 某 殿
府 縣 郡 村 長

説明

- 一、事業主又ハ其ノ管理人、又ハ罹災者ノ代理人氏名職業住所ヲ記ス尙事業管理人ハ事業ニ於ケル職務罹災者ノ代理人ハ代理ノ名義(父、母、配偶者、子受者等)ヲ證スヘシ
- 若シ罹災者自ラ届出ヲ爲ス場合ニハ(三)ニ掲タル記載ヲ此所ニ記入スヘシ
- 二、營造物ノ性質、其住所、被災害ノ發生シタル場所ヲ精密ニ記載ス
- 三、罹災者ノ氏名、年齢、性、住所、職業ヲ記載ス
- 四、災害ヲ發生セシメタル機具勞動及行爲ヲ記載ス
- 五、負傷ノ性質ヲ特定ス(脚ノ折骨、打傷、内部ノ傷害、窒息等)死亡ノ場合ニハ之ヲ明記ス
- 六、氏名職業住所ヲ記ス
- 七、工業主ノ保險ヲ付シタル保證シテケート、相互組合、又ハ保險會社ノ名稱及事務所ノ所在地ヲ記ス著シ保險者ナキ場合ニハ其ノ是記載ス

(註) 此届出ハ災害ヨリ四十八時間内ニ事業主又ハ其ノ管理人ニ依リ市町村長ニ提出スヘシ此期間ニハ日曜及祭日ヲ計算セス災害ヨリ四日内ニ罹災者復業セザルトキハ事業主又ハ其ノ管理人ハ罹災者ノ容態災害ノ結果ノ豫想及確定ノ結果ヲ知り得ヘキ時期ヲ記入セシムル醫師ノ證明書ヲ提出スヘシ(書式四)
罹災者又ハ其ノ代理人ガ届出チナス時ハ之ニ診斷書ヲ添付スヘシ

書式二

労働災害届出受領書

(一八九八年四月九日法律第十一條一九〇二年三月二十二日法律改正)

災害發生ノ年月日

罹災者

右災害ニ關シ何日何時ニ届出書ヲ受領セリ

何地ニテ作成ス

年 月 日

府市 郡 町長 氏 名 署名

氏 名 署名

書式三

労働災害届出ニ關スル調書

(一八九八年四月九日法律第十一條一九〇二年三月二十二日法律改正)

一九〇二年三月二十二日法律ニ依リ改正セラレタ一八九八年四月九日法律第十一條ニ依リ

届出人(一)(二)

災害發生年月日、時間

發生場所(三)

罹災者(四)

右届出ヲ 年 月 日 時 分ニ受領セリ

右届出書ノ記載ハ左ノ如シ

一、災害發生ノ原因及狀況下ノ如シ(五)

二、災害ニ依リ生シタル負傷下ノ如シ(六)

三、災害ノ證人下ノ如シ(七)

届出書ニ對シテハ即座ニ届出人ニ受領書ヲ交附シ且ツ届出書ハ法律ニ規定シタル期間内ニ治安裁判所ニ移牒スル爲本調書ニ之ヲ添付セリ(八)

本調書ハ前記年月日ニ作成確定セリ

縣市 郡 町長 氏 名(署名)

説明

一、氏名

二、事業主、其管理人、又ハ罹災者ノ代理人ノ氏名職業住所ヲ記ス管理人ノ場合ニハ其工場ニ於ケル職務及罹災者ノ代理人場合ニハ代理權ノ名義(父、母、配偶者、子、受任者等)ヲ記ス

罹災者自身届出チ爲シタル時ハ四ノ記載ヲ此所ニ爲スヘシ

三、事業ノ種類及其所在地並ニ災害ヲ發生セル場所ヲ精密ニ記スヘシ

- 四、罹災者ノ氏名性年齢職業住所ヲ記ス
- 五、災害ヲ發生セシメタル機具勞動又ハ行爲ヲ記ス
- 六、負傷ノ性質ヲ指定スヘシ例ヘハ脚ノ折骨、打傷、内部ノ傷害、窒息、等ヲ記スヘク死亡シタルトキハ之ヲ明示スヘシ
- 七、氏名職業及住所ヲ記ス
- 八、罹災者又ハ其代理人カ届出ヲ爲シタル時ハ調査ニ届出書ニ添付スヘキ醫師診斷書ノ提出アリタル旨ヲ記載スヘシ

書式四

醫師診斷書ノ提出

(一八九八年四月九日法律第十一條一九〇二年三月二十二日改正)

届出人(一)

年月日(二)某地ニ於テ發生セル災害ニ就キ提出セル届出書ニ追加トシテ罹災者ノ容態災害ノ結果ノ豫想及結果ヲ確定シ得ヘキ時期ヲ記入セル醫者(三)某ノ診斷書ヲ提出ス

一九〇〇年 月 日某地ニテ作成ス

右

某署名

府市區町 長殿

一、工業主又ハ工場管理人ノ氏名、職業、住所ヲ記載シ管理人ノ場合ニハ其ノ事業ニ於ケル職務ヲ記ス

- 二、罹災者ノ氏名年齢性職業住所ヲ記ス
- 三、氏名及住所

書式五

醫師診斷書ノ受領書

(一八九八年四月九日法律第十一條改正一九〇二年三月二十二日法律)

年月 日受領セル届出書ニ追加スル爲本日 何時提出アリタル罹災者某(三)ニ關スル醫師診斷書ニツキ某(二)ニ受領書ヲ交付ス

年月 日 某地ニ於テ作成ス

府市區町長

某署名(一)

説明

- 一、氏名
- 二、届出人ノ氏名
- 三、罹災者ノ氏名住所

書式六

治安裁判所ニ對シ調査シタル書類ノ移牒(註)

(一八九八年四月九日法律第十二條改正一九〇二年三月二十二日法律)

某(六)ニ於テ就業セル某(五)ニツキ 年月 日(四)發生シタル災害ニ關シ某(三)ヨリ年 月 日 時

(二)届出アリタル届出書ヲ移牒ス

本書ニハ前記届出書ニ追加スル爲提出サレタル醫師診斷書ヲ添付ス(七)又ハ醫師診斷書ハ法律ノ定メタル期間内ニ提出セサリシコトヲ證明ス(七)

一九〇〇年 月 日某地ニ於テ作成ス

府市區町長

某署名(一)

何々郡治安裁判所判事殿

- 一、氏名
 - 二、届出書ノ期日
 - 三、届出人ノ氏名、住所、資格（罹災者自身届出ヲ爲シタルトキハ五ノ記載ヲ此所ニ爲ス）
 - 四、災害ノ月日及時間
 - 五、罹災者ノ氏名及住所
 - 六、營造物ノ名稱及所在地
 - 七、場合ニ依リ何レカ捺消ス
- 註、此移様書ハ診断書ノ提出ヨリ二十四時間内及届出アリタルトキヨリ遅クモ五日以内ニ作成スルヲ要ス

書式七

労働災害届出ヲ監督官ニ移様スル通知書、（註）

（一八九八年四月九日法律第十一條一九〇二年三月二十二日法律改正）

年 月 日 時某地（四）ニ於テ某氏（五）ニ發生シタル災害ノ届出ヲ某氏（三）ヨリ
 受領シタル旨ヲ通告ス
 右通知ノ記載ハ左ノ如シ

一。災害發生ノ原因及状況下ノ如シ（六）

二。罹災者ノ負傷下ノ如シ（七）

三。災害ノ證人左ノ如シ（八）

醫師診断書ノ災害ニ關シ豫想セ 結果ハ左ノ如シ（九）

一九...年 月 日某地ニ於テ作成ス

府 市 區 町 村 長

某 殿（二）

（一）

説明

- 一、氏名
- 二、某地駐在府縣労働監督官或ハ某地駐在職務技師
- 三、届出人ノ氏名資格住所
- 四、事業ノ種類、其所在地並ニ災害ノ發生セル精密ナル場所
- 五、罹災者ノ氏名年齢、性、職業、住所
- 六、災害ヲ發生セシメタル機具、労働又ハ行爲
- 七、負傷ノ性質ヲ特定スルコト、脚ノ折過打傷内部ノ傷害室息等
- 八、氏名職業住所
- 九、罹災者死亡シタル時ハ特ニ之ヲ明記シ若シ死亡セサル時ハ醫師ノ診断書ニ從ヒ爲シ得ル限り労働不能ノ繼續スヘキ豫想期間ヲ記載スヘシ

註、此労働監督官又ハ鑛山普通技師ニ對スル通知ハ治安裁判所判事ニナス通告（書式四）ト同一期間ニナスヘシ但シ災害ニ依リ罹災者ノ死亡シタル場合又ハ醫師診断書ヲ提出スルニ至リタル場合ニ非サレハ之ヲ爲サス

（六）労働災害ニ關スル一八九八年四月九日法律ヲ鑛夫保安委員ニ適用スルノ件（一九二二年十二月十三日法律）

第一條 本法公布ヨリ三箇月後労働災害ニ關スル法令ヲ以下ノ特別規定ヲ留保シテ鑛夫保安委員ニ對

シ其ノ職務上又ハ職務執行ニ際シ生シタル災害ニ之ヲ擴張適用ス

第二條 一時的勞働不能ノ場合ニハ其ノ一時的補償金ハ一八九〇年七月八日法律第十六條ノ施行トシテ確定サレタル日給ノ半額トス

年金ヲ定ムル基礎タル年給ハ前記法律ニ依リ巡回ノ爲ニ鑛夫保安委員ニ支給サレタル補償金及一年ノ残りノ期間ニ於ケル取得トヲ併セ算入シテ之ヲ計算ス

第三條 保安委員又ハ保安委員補ハ知事ノ手ヲ經テ死亡又ハ永久勞働不能ヲ生シタル災害ノ危險ニ對シ國立保險局ニ保險ヲ付スルコトヲ要ス

此保險料並一時的不能ノ補償金及醫藥費ハ直稅ト同様ニ事業主ヨリ徵收シ知事ノ交付スル手形ニ依リ國庫之ヲ支拂フ

第四條 訴訟ハ國家ニ對シテ爲ス知事ハ國家ノ事業ニ於ケル雇人ニ對スルト同様ナル條件ニテ國家ヲ代表ス

(七) 勞働災害ニ關スル一八九八年四月九日法律ヲ林業ニ擴張適用スル件(一九一四年七月十五日法律)

第一條 勞働災害ノ責任ニ關スル法律ハ次條以下ノ規定ヲ留保シテ林業ニ擴張適用ス

第二條 林業ト見做スモノハ左ノモノニ限ル

伐木、拂枝、船卸、伐木ヲ山上カラ麓ニテ搬ヒ下スコト、林内ノ手力ニ依ル運搬及伐採地ニ於テ行フ挽割加工、鋸挽、積込、樹皮ヲ剝クコト、炭化、但シ本法ハ全部又ハ一部開拓スル林地ニシテ一人ニ所屬シ面積三「エクタール」ヲ超ヘサルモノ及材木以外ニ植ヘラレタル樹木ニシテ其ノ仕事カ事業ノ性質ヲ有セサルモノ及植木後二十年ヲ經サル森林中ノ小開闢地ニハ適用セス

本法ハ又土地所有者又ハ小作人或ハ分益耕作人カ自己ノ用ニ供スル爲行フ樹木ノ伐採ニハ適用セス

第三條 伐採其ノ他勞力ヲ加ヘラレタル材木ノ所有者ハ其ノ伐採カ競賣ニ依リ又ハ請負契約ノ履行トシテ事業主ニ依リ其ノ事業ハ引受ケラルルニ非サレハ之ヲ事業主ト見做ス

總テノ場合ニ於テ事業主ノ責任ハ罹災者又ハ其ノ代權人ノ雇入ノ證據ヲ立ツルヲ條件トシテ事業ノ勞働者雇員ニ及フモノトス

第四條 罹災者カ事業主ヨリ賃金ヲ受ケサルトキ又ハ一定ノ給金ヲ受ケサルトキハ補償金ハ其ノ府縣ノ農業勞働者ノ平均賃金ニ從ヒ之ヲ計算ス此平均賃金ヲ決定スル條件ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 災害ヨリ四日後罹災者カ業ニ復スルコト能ハス且災害發生場所カ事業主ノ住所地ノ郡以外ニ在ル場合ニハ罹災者又ハ其ノ代理人ヨリ書留郵便ヲ以テ事業主ニ通知スルヲ要ス

總テ勞働不能ヲ生シタル災害ハ事業主又ハ其ノ管理人ニ依リ一八九八年四月九日法律第十一條ニ定メタル條件ニ從ヒ災害發生地ノ市町村長ニ届出ツヘシ

此法律ニ依リ定メラレタル期間ハ事業主カ災害發生地ノ郡内ニ住所ヲ有セサル場合ニハ書留郵便ヲ領收シタルトキヨリ計算ス

届出人カ罹災者ノ容態、災害ノ結果ノ豫想及確定的ニ結果ヲ知り得ヘキ時期トヲ記載スル醫師ノ診斷書ヲ災害通知書ニ添付セサル場合ニハ事業主ハ災害通知書ノ受領後四日以内ニ其ノ負擔ニテ其ノ事業ヲシテ醫師ノ診斷書ヲ作り災害地ノ市町村長ニ提出セシムヘシ市町村長ハ之ニ對シ領收書ヲ交附ス、事業主之ヲ爲サ、ルトキハ一八九八年四月九日法律第十四條ノ罰ニ處セラル但シ事業主自身又ハ其ノ管理人ハ罹災者其ノ代理人ヨリ災害ノ通知ヲ受ケサルモ四日以上ノ勞働不能ヲ生スヘキ災

害ノ發生セシコトヲ知リタルトキハ診斷書ヲ添へ災害發生地ノ市町村長ニ届出ヲ爲スヲ要ス
災害届出書ノ郵税及醫師診斷書ノ費用ハ事業主ノ負擔トス事業主ニ對スル通知ノ印刷シタル用紙ハ
無償ニテ利害關係人ノヲ使用スルコトヲ得此等ノ標準ノ文句ハ命令ヲ以テ定メ且ツ災害通知ヲ市町
村長ヨリ勞動大臣ニ移轉スル條件ヲ定ムヘシ但シ此文句ハ使用スルノ義務ナシ

一八九八年四月九日法律第十二條第二項ニ定メタル調査ヲ爲スヘキ期間ハ三日ニ延長シ調査ノ終了
期日ハ十五日トス

一時的補償金ヲ受クル權利ハ災害ノ届出カ不可抗力ニ依ル場合ヲ除キ罹災後四日以内ニ届出テサルト
キハ災害届出ノ日マテハ發生セズ

第六條 一九〇九年五月二十九日法律ニ定メタル條件ニ從テ營業許可ヲ受ケタル事業主ハ一八九八年
四月九日法律第二十五條ニ定メタル租稅ヲ收納スヘシ營業許可ヲ受ケサル事業主ハ一九〇八年三月
二十六日法律ニヨル租稅ヲ納付スヘシ

第七條 伐木業者間ニ特ニ保證組合ヲ設立セムトセハ少クトモ加入伐木業者五十名以上ナルカ保險サ
ルヘキ平均貸金少クトモ二百萬フラン以上ナルカ又ハ彼等ノ所得カ合計平均五百萬フランナル
トキハ一九〇六年四月十二日法律第六條ニ定ムル條件ニ從テ設立スルヲ得ヘシ

第八條 本法ノ規定スル災害ニハ一八九八年四月九日法律第十一條及第三十一條ヲ適用セズ

第九條 本法ハ命令ノ公布及發布後九月一日ヨリ効力ヲ生ス
公布ノ日ヨリ三箇月内ニ第一條規定ノ事業ニツキ其ノ以前ニ締結セラレタル保險契約ハ勞動災害ニ
關シ施行サルル法律ニ特定サレタル危險ヲ保險スルトキト雖モ保險者又ハ被保險者ニヨリ解除セラ

ルルコトヲ得但シ本法ニ規定スル危險ノ部分ニ付テノミニ限ル

第十條 解除ハ一九〇六年四月十二日法律第二條末項ニツキ特定セル條件ニ從テ効力ヲ發生ス
保險者ハ一方ニハ勞動災害ニ關スル法律カ契約ニ依リ保險セラレタル危險ノ全部又ハ一部ニ適
用セラレ該法律ノ危險ニ對シテ被保險者ヲ保險シ然ラサル場合ニハ民法上ノ責任ノ危險ヲ保證スル
義務ヲ負擔スル混合契約ハ前條ニ規定スル割合、手續及期間ニ依リ解除スルコトヲ得但シ被保險者
ノ解除ハ解除申込後八日以内ニ保險者カ保險料ヲ増加スルコトナクシテ本法ノ規定スル危險ヲ明示
的ニ保險スル保證契約修正書ヲ提出スル場合ニハ無効トス

前條ニ規定スル三箇月ノ期間ノ經過後兩當事者沈黙何等手續ヲ經テ混合契約ヲ本法ノ規定スル危險
ニ適用セシムル効力ヲ有ス

(八一) 一九一六年十一月二十五日法律

勞動災害ニ罹リタル廢兵ニ關スル件

第一條 陸兵海兵及之ニ相當スル者ニシテ戰爭中ノ出來事ニ依リ又ハ現在ノ戰爭中命セラレタル職務
ニ依リ受ケタル負傷ノ結果トシテ又ハ現戰爭職務上ノ危險又ハ疲勞ニ依リ重態トナサタル又ハ得タ
ル病氣ノ結果ニ依リ不治ニシテ重大ナル廢疾ト爲リタルモノハ一八九八年四月九日、一八九九年六
月三十日、一九〇六年四月十二日、一九〇七年七月十八日及一九一四年七月十五日法律ニ規定スル條
件ニ從テ發生セル勞動災害ノ罹災者タル場合ニハ大統領ノ命令又ハ裁判所ノ判決ニシテ其ノ死亡ニ
依リ又ハ其ノ勞動能力ノ永久ノ減少ヨリ生スル年金ノ額ヲ決定スルモノハ特ニ左ノ事項ヲ明記スヘシ
一、災害ノ原因カ專ラ以前ノ戰爭ノ廢疾ノ結果タルヤ否ヤ

二、災害ノ結果タル能力ノ永久的減少カ以前ノ戦争ノ瘵疾ニ固リ加重セラレタルモノナリヤ若シ其ノ場合ニハ其ノ割合

第一ノ場合ニハ事業主ハ罹災者又ハ其ノ權利者ニ支給スヘキ年金ノ全額ヲ命令又ハ裁判ニ依リ免除セラレ、第二ノ場合ニハ命令又ハ裁判ニ確定サレタル加重ニ相當スル年金ノ部分ヲ免除セラレ、此免除ノ適用サルル年金ヲ代表スル資金ハ戦争負傷者ト稱スル特別ナル救済資金ノ中ヨリ先取シテ國立養老恩給局ニ拂込ムヘシ此事務ハ労働大臣之ヲ實施シ其財政上ノ管理ハ預金局ニテ之ヲ管掌ス救済特別資金ハ備主及保險會社賦金(租税)ニ依リ給セラレ賦金率ハ毎年財務法ヲ以テ一八九八年四月九日法律第二十五條一九〇七年七月十八日法律第四條一九〇八年三月二十六日法律ニ依リ改正サレタル一九〇六年四月十二日法律第四條及第五條一九一四年七月十五日法律第六條備主ノ種類ニ關スル件ニ規定スル様式ニ從ヒ且一九〇五年三月三十一日法律ニ依リ改正サレタル一八九八年四月九日法律第二十七條末項保險會社ニ關スル件ニ規定スル様式ニ從ヒ定ム保險會社ノ租税ハ専ラ其ノ負擔トス

第二條 前條ニ規定スル救済特別資金ニ關スル事務及其ノ組織ノ條件ハ労働災害ニ對スル保險評議委員會ノ意見ヲ聞キ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 前數條ノ適用ニ依リ事業主及保險組合會社ヨリ徴收スヘキ租税ハ經濟的ニ且一九一六、一七、一八年ニツキ左ノ數項ニ規定サレタル租税ノ三分ノ一トス
一、營業許可ヲ受ケタル者及鋸火爐ノ使用者ニツキテハ一九一五年五月二十八日命令ニ依リ
二、一九〇六年四月十二日法律第五條第二項及第三項ノ適用ニツキテハ一九一二年十二月十三日法律ニ依リ

三、一九一三年度保險會社ノ監督經費ヲ定ムル労働大臣ノ命令ニ依リ

第四條 戦時負傷者救済資金ノ拂込ヲ終了シタル後殘額アリタルトキハ一八九八年四月九日法律第二十四條ニ基キ労働災害ニツキ定メラレタル保證資金ニ拂込ムヘシ

(九)一九一九年十月二十五日法律

職業ニ基ク疾病ニ一八九八年四月九日ノ労働災害ニ關スル法律ヲ擴張適用スル件

第一條 労働災害ノ責任ニ關スル法律ハ本法ノ特別規定ニ依リ留保ノ下ニ職業ニ基ク疾病ニ適用ス

第二條 本法ノ附表ニ記載スル急性又ハ慢性ノ疾病ハ當該工業労働ニ常時従事スル労働者ニ生シタルトキ之ヲ職業病ト看做ス

本法ノ適用アル職業病ノ種類ハ將來法律ニ依リ増加シ本法ノ附表ハ之ヲ修正且追補スルコトヲ得

第三條 労働者カ本法ニ規定スル事業ヲ離ルル場合ニハ其ノ雇主ハ前條ニ規定セル表ニ依リ各疾病ニ付定メラレタル特別ノ期間中労働者ニ發生スルコト有ルヘキ當該事業ノ職業病ノ責任ニ任ス但シ此ノ責任ハ労働者ノ離業ノトキト疾病ニ依リ補償スヘキ労働不能ノ發生スルトキノ間ニ經過シタル時間ニ應シテ減少スルモノトス

此ノ労働不能ト爲リタルトキニ於テ若シモ労働者カ當該病ニ付同種事業分類ニ屬スル他ノ事業場ニ於テ労働スルトキハ其ノ新ナル備主ハ一八九八年四月九日ノ法律第三條及第四條ニ依リ定メラレタル補償金ノ剩餘部分ニツイテノ責任ニ任ス

若シ備主ノ一人カ許スヘカラサル過失ヲ行ヒ被害者ノ健康ニ影響ヲ及ホシタルコト證明セララルトキハ裁判所ハ其ノ責任ノ負擔ヲ増加スルコトヲ得

責任アル最後ノ傭主ハ被害者又ハ其ノ代理人ニ對シ一切ノ補償ノ責ニ任ス但シ其ノ前ノ傭主ニ對シ求償スルコトヲ得

第四條 行政法ノ規定ニ依リ定メラルル條件ニ從ヒ労働ノ工程ニ本法ニ規定スル職業病ヲ惹起スル虞アル物品ノ使用ヲ含マサルコトヲ宣言爲シタル一切ノ工業ハ本法ノ義務ヲ負フコトナシ但シ其ノ事業ニツキ前條ニ指定スル條件ニ從ヒ定メラレタル責任ノ期間中ニシテ宣言前使用シタル労働者カ職業病ニ罹ルコトアルヘキ場合ニハ責任アルモノトス

事業主ニシテ故意ニ虚偽ノ宣言ヲ爲シタルトキハ一〇〇「フラン」以上五、〇〇〇「フラン」以下ノ罰命及三日以上一箇月以下ノ禁錮ニ處ス

第五條 本法ニ依リ被害者カ補償ヲ要求スル一切ノ職業病ハ労働ヲ休止シタルトキヨリ十四日以内ニ自ラ之ヲ市町村長ニ申立ツヘシ市町村長ハ其ノ聴取書ヲ作成シ且ツ直ニ受取證書ヲ交付ス

此ノ宣言書ニハ疾病ノ性質及其ノ起リ得ヘキ結果ヲ記載シタル醫師ノ證明書ヲ添付スヘシ、宣言書ノ様式ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

之ノ申立書ノ謄本ハ市町村長直ニ之ヲ疾病ニ罹レル労働者ヲ使用シタル事業主及所轄ノ府縣労働監督官又ハ鑛務技師ニ通達ス

一八九八年四月九日ノ法律第十八條ニ定ムル時効期間ハ申立ノ日ヨリ進行ス

第六條 一八六八年七月十一日ノ法律ニ設ケラレタル國民災害保險金庫ノ事業ハ死亡又ハ全部若ハ一部ノ永久的労働不能ヲ伴フ職業病ノ爲ニ本法ニ依リ定ムル危険ニ擴張適用ス

當該料率ハ本法又ハ本法第二條ニ定ムル後日ノ法律ノ發布後六箇月以内ニ労働社會大臣及大藏大臣

ノ報告ヲ基礎トスル命令ニ依ル承認ヲ受ケテ國民災害保險金庫之ヲ定ム

此ノ料率ハ一八六八年七月十一日ノ法律ニ定ムル補助金ヲ求ムル必要ヲ生セスシテ危険及金庫ノ一般管理費用カ全然填補セラルヘキ方法ニ依リ計算セラルヘキモノトス

第七條 債務者ニシテ一時ニ義務ヲ免レムト欲スル者ハ本法ニ依リ計算シタル年金ニ代ル元金額ヲ國民恩給金庫ニ拂込ムコトヲ得金庫ハ之ノ爲ニ職業病ノ被害者及其ノ相續人ノ死亡率ヲ考慮シタル料率ヲ定ムヘシ此ノ料率ハ後日經驗ノ結果ニ依リ變更スルコトヲ得但シ此ノ料率ノ制定迄ハ納付スヘキ元金額ノ決定ハ一八八六年七月二十日ノ法律ニ依リ定ムル年金ニ付使用セラルル料率ニ從フ

此ノ料率ノ適用ヲ爲シ得ル經過期間ハ本法ノ效力發生ノトキヨリ五年ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

第八條 保險組合ト共ニ本法ニ規定スル危険ニ對シ傭主ヲ保證シ得ヘキ保證組合ノ活動シ得ヘキ特別ノ條件ハ行政規定ニ依リ之ヲ定ム

第九條 一九〇九年五月廿九日ノ法律ニ依リ修正セラレタル一八九八年四月九日ノ法律第二十五條及一九〇六年四月十二日ノ法律第四條第二項ノ規定ハ本法ノ適用ヲ受クル事業主ニ之ヲ擴張適用ス

第十條 職業病高等委員會ハ第二條ニ定ムル表ノ修正及本法ノ適用ノ擴張其ノ他労働大臣ノ諮問ニ係ル醫術及技術ニ關スル一切ノ問題ニ付キ其ノ意見ヲ述ル義務ヲ負フ

- 委員會ハ次ノ者ヲ以テ構成ス
- 一、上院議員二名及下院議員三名各々互選ニ係ルモノ
- 二、貯金局長官
- 三、労働局長

- 四、保險局長
 - 五、商工局長
 - 六、私營保險監督課長
 - 七、學士院(L'Académie des Sciences)
 - 八、醫學院(L'Académie de médecine)
 - 九、醫科大學教授二名
 - 十、産業衛生委員會委員タル醫師二名
 - 十一、勞働災害保險諮問委員會委員二名
 - 十二、商業會議所ノ選出ニ係ル委員二名
 - 十三、勞資協議會中ヨリ最高勞働會議ノ指名ニ係ル傭主及勞働者各二名
 - 十四、職業病ニ關シ特ニ智識ヲ有スルモノ二名
 - 十五、相互保險組合又ハ職業病保證組合ノ組長又ハ管理人二名
 - 十六、職業病ニ對スル保險株式又ハ合資會社ノ長又ハ管理者二名
- 其ノ他審議ノ問題タル工業ヲ代表スル傭主及勞働者二名ヲ各事項ニ付特ニ委員會ニ參加セシム
- 委員ノ任命再任並議長及書記ノ指定ノ方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第十一條 何人ト雖モ勞働災害ニ罹リタル者ハ組合又ハ會社事業主、保險者其ノ他一切ノ者ニ對シ脅迫、贈與、金錢ノ約束、醫師又ハ藥劑師ノ謝金ノ返還ニヨリ勞働災害又ハ職業病ノ被害者ヲ病院、病室又ハ藥局ニ引入レムトシ、醫師又ハ藥劑師ノ選擇ニ關スル勞働者ノ自由ヲ侵害シ又ハ侵害セムト

シタルモノハ一〇〇フラン以上五〇〇フラン以下ノ罰金及三日以上三箇月以下ノ禁錮ニ處ス

第十二條 職業病ノ豫防ノ爲且將來本法ヲ擴張適用スル目的ノ爲職業的性質ヲ有シ且最高委員會ニ諮問ノ上命令ニ依リ定メラルル表ノ内ニ包含スル一切ノ疾病ニツキ其ノ存在ヲ知リ得タル醫師又ハ衛生官ハ之ヲ届出ツル義務ヲ有ス

此ノ届出ハ勞働監督官及鑛務技師ヲ經テ勞働大臣ニ對シテ之ヲ爲ス且疾病ノ性質及患者ノ職業ヲ記載スルモノトス

右届出ハ控付帳簿ヨリ切りタル用紙ヲ以テ之ヲ爲ス醫師ノ之カ使用及送付ハ無料トス

第十三條 本法ノ規定ハ其ノ公布後十四日ヲ以テ效力ヲ發生ス但シ第十二條ノ規定ハ同條ニ定ムル命令ノ發布後一箇月ヲ以テ適用セラル

第二條ニ定ムル變更及追加ハ同條ニ定ムル後日ノ法律ノ發布ヨリ起算シ三箇月ノ猶豫ヲ以テ之ヲ施行ス且各疾病ニ依リ定ムル責任ノ期間ニ依リ延長セララル、モノトス

附表

鉛中毒ノ危険アル疾病	勞働者鉛中毒ヲ惹起スル炭アル産業勞働

本法ノ適用ヲ受クル工業的事業前之ニ伴フ職業疾病表

一、職業的鉛中毒 鉛及其ノ化合物ニ依リ惹起サルル疾病

責任期間 一年

(一) 鉛中毒ニ依リ惹起サルル疾病名

鉛疝痛

筋肉リユーマチ及關節リユーマチ

伸筋麻痺

鉛毒性ヒスタリー症

腎臟炎

鉛毒性神經痛

(二) 勞働者ノ鉛中毒ヲ惹起シ得ヘキ作業名

一、鉛ノ精煉

二、鉛又ハ鉛ノ化合物ノ熔融、展延

三、含鉛活字金ノ熔融

四、鉛ノ合金ヲ以テスル所謂錫器ノ製造

五、鉛ノ合金ヲ以テスル鍍付

六、鉛ノ合金ヲ利用スル植字機ノ取扱

七、鉛ノ合金ヲ以テスル鍍錫

八、鉛ノ合金ノ玩具ノ熔融

九、鉛ノ合金ノ鑷口金属性包装ノ製造

一〇、古罐詰ノ離鐵

一一、含鉛活字ノ取扱

一二、鉛鹽ノ製造(鉛白、密陀隴、鉛丹、クロール鉛等)

一三、含鉛顔料ノ粉碎

一四、含鉛塗料ヲ使用スル一切ノペンキ塗

一五、鉛蓄電池ノ製造

一六、乾燥油及含鉛仮漆ノ製造

一七、鉛ノ釉藥ヲ用キル陶磁器ノ製造

一八、含鉛物ヲ用キル陶磁器ノ裝飾

一九、金屬面ニ含鉛釉藥ノ焼付

二〇、含鉛塗料ノ塗布

二一、含鉛塗料ノ染色付

二二、錫バテニ依ル板硝子ノ研磨

二、職業的水銀中毒 水銀及其ノ化合物ニ依リ惹起サルル疾病
責任期間 一年

(一) 水銀中毒ニ依リ惹起サルル疾病名

水銀中毒性口腔炎
 水銀中毒性擾顛
 水銀中毒性營養不良
 水銀中毒性惡液性症
 水銀中毒性痲痺

(二)

勞働者ノ水銀中毒ヲ惹起シ得ヘキ作業名

- 一、水銀ノ蒸溜
- 二、水銀ポンプヲ用キル電球及光線用管球ノ製造
- 三、水銀ヲ用キル晴雨計、壓力計又ハ寒暖計ノ製造
- 四、水銀ヲ用キル鍍金
- 五、水銀鹽ノ製造（硝酸水銀、鹽化水銀、青化水銀等）
- 六、硝酸水銀ヲ用キル皮革ノ浸漬
- 七、水銀鹽ニ依ル毛皮ノ加工
- 八、水銀鹽ニ依ル青銅色塗付及金屬象嵌
- 九、水銀鹽ニ依ル動物ノ剝製
- 一〇、雷汞ノ製造

一九一九年十一月十九日命令

職業病最高委員會ニ關スル命令ノ件

第一條 職業病最高委員會ノ委員ハ權限ニ依ル委員ヲ除クノ外命令ニ依リ四年間ニ付各選任セラルルモノトス

最高委員會ハ二年毎ニ半數宛更新スルモノトス
 最初ノ更新ニツイテハ抽籤ニ依リ二年ノ初ニ例外的ニ委任ノ終了スル委員ヲ指定ス
 退任セル委員ハ再選ヲ妨ケス

第二條 最高委員會委員ニシテ其ノ任命セラレタル資格ヲ失ヒタルトキハ直ニ交替ス

第三條 勞働大臣ハ委員中ヨリ最高委員會議長ヲ任命ス

贊否同數ノ場合ニハ議長ノ票決ニ依リテ之ヲ決ス

第四條 最高委員會ノ書記ハ勞働監督ノ事務及私營保險監督ノ事務ニ當ルモノ之ヲ爲ス

編輯者 藤田 誠
發行所 藤田 誠
印刷所 藤田 誠
大正十三年一月三十一日發行

大正十三年一月三十日印刷
大正十三年一月三十一日發行

社 會 局

靜岡市臺所町三十五番地

印刷者 大橋 勘藏

靜岡市臺所町三十五番地

印刷所 大橋 活版所

14.5
173

終